

(2) 外科

外科	(有) ・ 無		
外科と組み合わせた診療科名			
① 呼吸器外科	② 消化器外科	③ 乳腺外科	4 心臓外科
5 血管外科	⑥ 心臓血管外科	⑦ 内分泌外科	8 小児外科
診療実績			

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
- 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

① 精神科	② 小児科	③ 整形外科	④ 脳神経外科	⑤ 皮膚科	⑥ 泌尿器科	⑦ 産婦人科
⑧ 産科	⑨ 婦人科	⑩ 眼科	⑪ 耳鼻咽喉科	⑫ 放射線科	⑬ 放射線診断科	
⑭ 放射線治療科	⑮ 麻酔科	⑯ 救急科				

- (注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	(有) ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名	
① 口腔科（周術期）	
歯科の診療体制	

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
- 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 形成外科	2 漢方内科	3 病理診断科	4 リハビリテーション科
--------	--------	---------	--------------

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
27床	床	床	床	850床	877床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	612 人	156人	627.6人	看 護 補 助 者	84 人	診療エックス線技師	0 人
歯 科 医 師	2 人	1 人	2 人	理 学 療 法 士	17 人	臨床検査技師	95人
薬 剤 師	82 人	1人	82 人	作 業 療 法 士	5 人	衛生検査技師	0 人
保 健 師	0人	0人	0 人	視 能 訓 練 士	7 人	そ の 他	人
助 産 師	30人	0人	30人	義 肢 装 具 士	0 人	あん摩マッサージ指圧師	0 人
看 護 師	1,089人	3人	1,090.9人	臨 床 工 学 士	45人	医療社会事業従事者	13 人
准 看 護 師	1人	1人	1.5 人	栄 養 士	2 人	その他の技術員	9人
歯科衛生士	2人	1人	2.1人	歯 科 技 工 士	0人	事 務 職 員	213人
管理栄養士	10人	0人	10 人	診 療 放 射 線 技 師	69人	そ の 他 の 職 員	2人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含まないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	38 人	眼 科 専 門 医	11 人
外 科 専 門 医	38 人	耳 鼻 咽 喉 科 専 門 医	9 人
精 神 科 専 門 医	3 人	放 射 線 科 専 門 医	22 人
小 児 科 専 門 医	11 人	脳 神 経 外 科 専 門 医	41 人
皮 膚 科 専 門 医	8 人	整 形 外 科 専 門 医	13 人
泌 尿 器 科 専 門 医	8 人	麻 酔 科 専 門 医	13 人
産 婦 人 科 専 門 医	17 人	救 急 科 専 門 医	18 人
		合 計	250 人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (汲田 伸一郎) 任命年月日 平成 29 年 2 月 1 日

医療安全管理部部长、医療安全管理責任者、医療安全管理委員会委員長 平成 26 年 4 月 1 日から平成 29 年 1 月 31 日

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	722.1 人	0 人	722.1 人
1日当たり平均外来患者数	1,592.3 人	19.8 人	1,612.1 人
1日当たり平均調剤数	1508.8 剤		
必要医師数	170.9人		
必要歯科医師数	2人		
必要薬剤師数	24人		
必要(准)看護師数	415人		

- (注)1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二条の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設 備 概 要			
集中治療室	4618.17 m ²	鉄筋コンクリート	病床数	36床	心電計	④・無
			人工呼吸装置	④・無	心細動除去装置	④・無
			その他の救急蘇生装置	④・無	ペースメーカー	④・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 192.558 m ² [移動式の場合] 台数 台		病床数	11床		
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 24.56 m ² [共用室の場合] 共用する室名					
化学検査室	496.42m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 検体前処理分注機、免疫化学分析装置、血液凝固測定装置			
細菌検査室	175.85m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 血液培養装置、一般細菌同定感受性分析装置、安全キャビネット等			
病理検査室	468.77m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 安全キャビネット、凍結切片作成装置、低温フリーザー等			
病理解剖室	80.1m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 感染対策解剖台、遺体冷蔵庫、肉眼撮影装置等			
研究室	1,503.34m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 病理組織学標本作成装置、細胞培養装置、オートクレーブ等			
講義室	886.35m ²	鉄筋コンクリート	室数	4室	収容定員	620人
図書室	1,424.65m ²	鉄筋コンクリート	室数	6室	蔵書数	61,000冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
- 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

	紹介率	102.0 %	逆紹介率	60.6 %
算出根拠	A：紹介患者の数			19,206 人
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数			14,303 人
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数			4,843 人
	D：初診の患者の数			23,587 人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
長島 隆	東洋大学	○	利害関係のない学識経験者	有・ 無	1
小泉 博明	文京学院大学		利害関係のない学識経験者	有・ 無	1
櫻田 晋太郎	弁護士		利害関係のない学識経験者	有・ 無	1
豊田 郁子	NPO 法人「架け橋」		利害関係のない医療従事者以外の者	有・ 無	2
近藤 幸尋	日本医科大学付属病院		副院長・泌尿器科部長	有 ・無	3
				有・無	

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。
 1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
 3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有 ・無
委員の選定理由の公表の有無	有 ・無
公表の方法	
学校法人のホームページにて公表	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	胃ESDにおける内視鏡的手縫い技術の応用	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要 早期胃癌に対する内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)においては、術後の後出血や遅発性穿孔が問題となる。ESD後潰瘍に対して、ESD直後に軟性内視鏡用の持針器とバーブ付き外科用縫合糸を用いて、完全な縫縮を行い、後出血や遅発性穿孔の予防に有効な結果であった。			
医療技術名	超拡大内視鏡診断 Endocytoscopyを使った内視鏡診断	取扱患者数	100人
当該医療技術の概要 近年、内視鏡により生きた細胞や核を直接観察する超拡大観察が注目されるようになってきており、2018年遂に臨床使用に耐える超拡大内視鏡として上梓されることとなった。 ECSによる観察は核を染色して行われるため、染色可能なあらゆる臓器において細胞だけではなく核異型も捉えることが可能である。こうして得られた画像は、従来の顕微鏡下のHematoxylin-Eosin染色の水平像との相関が高く、現在のGold standardである生検材料の組織像に近似したoptical biopsyが実現できると期待されている。			
医療技術名	補助循環用ポンプカテーテル	取扱患者数	27人
当該医療技術の概要 心原性ショック患者に対して、小型ポンプを左心室内に留置し、順行性の血流を増加させ、循環維持と左室負荷を軽減する。			
医療技術名	経カテーテル大動脈弁植え込み術	取扱患者数	32人
当該医療技術の概要 重度の大動脈弁狭窄症で、外科手術が困難とされていた方に対するカテーテルを用いた新しい治療法。			
医療技術名	経皮的な中隔心筋焼灼術	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 薬剤抵抗性の左室内圧較差を認める閉塞性肥大型心筋症に対する経カテーテル的治療法。			
医療技術名	低心機能症例における難治性心室性不整脈に対するカテーテルアブレーション	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 電氣的除細動抵抗性の致死性心室性不整脈Electrical Storm状態における緊急・準緊急カテーテルアブレーション。			
医療技術名	機械的血栓回収術	取扱患者数	95人
当該医療技術の概要 脳梗塞急性期患者が主幹動脈閉塞を認めた場合に、血管内カテーテル治療にて血栓を回収する。			
医療技術名	内視鏡手術用支援機器を用いる腹腔鏡下直腸切除・切断術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 直腸癌に対する腹腔鏡下直腸切除・切断術は生体に対して低侵襲であり、腹腔鏡による拡大視効果から緻密な手技が可能であるため、近年急速に増加している。しかし、骨盤内の直腸剥離授動、側方リンパ節郭清など解剖学的に狭い部位では腹部からの直線的な鉗子での操作性は乏しく、手技の難易度は高まる。内視鏡手術の欠点を補うために開発された機器のひとつが、内視鏡手術支援ロボット(da Vinci Surgical System)である。内視鏡手術支援ロボットは鮮明な三次元モニターによる拡大視、繊細な動き、多関節機構、手振れ防止機能、安定性、motion scalingなど、従来の手術手技の欠点を補完する複数の特長を有する。従来の手術手順等の変更はなく、術者の手の支援としてのみ内視鏡手術支援ロボットを使用する。			
医療技術名	ガイディングマーカーシステム®と磁気プローブ開発機を利用した乳癌非触知病変の摘出に関する有効性の検討(AMED多施設共同研究)	取扱患者数	13人
当該医療技術の概要 乳房の非触知病変に対し、ガイディングマーカーシステム®を病変部に挿入し、磁気プローブで先端の金属部を検知することにより、乳房非触知病変の切除をより有効に施行できることを検証した。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

疾患名		患者数		疾患名		患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	2	56	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症		39
2	筋萎縮性側索硬化症	5	57	下垂体前葉機能低下症		148
3	進行性核上性麻痺	6	58	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)		1
4	パーキンソン病	87	59	先天性副腎皮質酵素欠損症		2
5	シャルコー・マリー・トゥース病	2	60	サルコイドーシス		69
6	重症筋無力症	59	61	特発性間質性肺炎		18
7	多発性硬化症/視神経脊髄炎	51	62	肺動脈性肺高血圧症		11
8	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー	13	63	慢性血栓性肺高血圧症		3
9	封入体筋炎	1	64	リンパ管筋腫症		2
10	多系統萎縮症	1	65	網膜色素変性症		11
11	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	17	66	バッド・キアリ症候群		2
12	ライソゾーム病	2	67	特発性門脈圧亢進症		4
13	ミトコンドリア病	1	68	原発性胆汁性肝硬変		29
14	もやもや病	14	69	原発性硬化性胆管炎		2
15	全身性アミロイドーシス	5	70	自己免疫性肝炎		18
16	ベスレムミオパチー	2	71	クローン病		42
17	神経線維腫症	21	72	潰瘍性大腸炎		131
18	天疱瘡	8	73	好酸球性消化管疾患		1
19	膿疱性乾癬(汎発型)	5	74	全身型若年性特発性関節炎		17
20	スティーヴンス・ジョンソン症候群	7	75	筋ジストロフィー		2
21	中毒性表皮壊死症	1	76	皮膚下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症		1
22	高安動脈炎	13	77	結節性硬化症		2
23	巨細胞性動脈炎	6	78	家族性良性慢性天疱瘡		2
24	結節性多発動脈炎	6	79	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)		12
25	顕微鏡的多発血管炎	13	80	マルファン症候群		2
26	多発血管炎性肉芽腫症	5	81	エーラス・ダンロス症候群		7
27	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	16	82	ウィルソン病		1
28	悪性関節リウマチ	12	83	修正大血管転位症		2
29	バージャー病	11	84	急速進行性糸球体腎炎		1
30	原発性抗リン脂質抗体症候群	1	85	一次性ネフローゼ症候群		48
31	全身性エリテマトーデス	109	86	紫斑病性腎炎		4
32	皮膚筋炎/多発性筋炎	80	87			
33	全身性強皮症	132	88			
34	混合性結合組織病	24	89			
35	シェーグレン症候群	33	90			
36	成人ステル病	8	91			
37	再発性多発軟骨炎	3	92			
38	ベーチェット病	48	93			
39	特発性拡張型心筋症	34	94			
40	肥大型心筋症	48	95			
41	再生不良性貧血	24	96			
42	自己免疫性溶血性貧血	2	97			
43	発作性夜間ヘモグロビン尿症	6	98			
44	特発性血小板減少性紫斑病	44	99			
45	原発性免疫不全症候群	5	100			
46	IgA腎症	26	101			
47	多発性嚢胞腎	26	102			
48	後縦靭帯骨化症	4	103			
49	広範脊柱管狭窄症	1	104			
50	特発性大腿骨頭壊死症	10	105			
51	下垂体性ADH分泌異常症	16	106			
52	下垂体性TSH分泌亢進症	1	107			
53	下垂体性PRL分泌亢進症	18	108			
54	クッシング病	16	109			
55	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	1	110			

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ 救急医療管理加算	・ ハイリスク妊娠管理加算
・ 地域歯科診療支援病院歯科初診料	・ ハイリスク分娩管理加算
・ 歯科外来診療環境体制加算	・ 後発医薬品使用体制加算
・ 歯科診療特別対応連携加算	・ 病棟薬剤業務実施加算
・ 特定機能病院入院基本料	・ データ提出加算
・ 超急性期脳卒中加算	・ 入退院支援加算
・ 診療録管理体制加算	・ 認知症ケア加算
・ 医師事務作業補助体制加算	・ せん妄ハイリスク患者ケア加算
・ 急性期看護補助体制加算	・ 精神疾患診療体制加算
・ 看護職員夜間配置加算	・ 精神科急性期医師配置加算
・ 無菌治療室管理加算	・ 排尿自立支援加算
・ 緩和ケア診療加算	・ 地域医療体制確保加算
・ 精神科身体合併症管理加算	・ 救命救急入院料1
・ 精神科リエゾンチーム加算	・ 救命救急入院料4
・ 栄養サポートチーム加算	・ 特定集中治療室管理料
・ 医療安全対策加算	・ ハイケアユニット入院医療管理料
・ 感染防止対策加算	・ 新生児特定集中治療室管理料
・ 抗菌薬適正使用支援加算	・ 新生児治療回復室入院医療管理料
・ 患者サポート体制充実加算	・ 小児入院医療管理料
・ 褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・ 短期滞在手術等基本料1

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ 外来栄養食事指導料	・ 排尿自立指導料
・ 遠隔モニタリング加算(ペースメーカー指導管理料)	・ ハイリスク妊産婦連携指導料1
・ 糖尿病合併症管理料	・ ハイリスク妊産婦連携指導料2
・ がん性疼痛緩和指導管理料	・ 肝炎インターフェロン治療計画料
・ がん患者指導管理料	・ 薬剤管理指導料
・ 外来緩和ケア管理料	・ 検査・画像情報提供加算及び電子的診療情報評価料
・ 糖尿病透析予防指導管理料	・ 医療機器安全管理料1
・ 小児運動器疾患指導管理料	・ 医療機器安全管理料2
・ 乳腺炎重症化予防・ケア指導料	・ 医療機器安全管理料(歯科)
・ 婦人科特定疾患治療管理料	・ 精神科退院時共同指導料
・ 院内トリアージ実施料	・ 総合医療管理加算(歯科疾患管理料)
・ 腎代替療法指導管理料	・ 歯科治療時医療管理料
・ 救急搬送看護体制加算	・ 在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物居住者訪問看護・指導料の注2
・ 外来放射線照射診療料	・ 持続血糖測定器加算
・ ニコチン依存症管理料	・ 遺伝学的検査
・ がん治療連携計画策定料	・ 骨髄微小残存病変量測定

・ BRCA1/2遺伝子検査	・ 単線維筋電図
・ がんゲノムプロファイリング検査	・ 神経学的検査
・ 先天性代謝異常症検査	・ 補聴器適合検査
・ HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・ ロービジョン検査判断料
・ ウイルス・細菌核酸多項目同時検出	・ コンタクトレンズ検査料
・ 口腔粘膜処置	・ 小児食物アレルギー負荷検査
・ 検体検査管理加算(I)	・ 内服・点滴誘発試験
・ 検体検査管理加算(IV)	・ センチネルリンパ節生検(片側)
・ 国際標準検査管理加算	・ 経気管支凍結生検法
・ 遺伝カウンセリング加算	・ 画像診断管理加算1
・ 遺伝性腫瘍カウンセリング加算	・ 画像診断管理加算2
・ 心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・ 画像診断管理加算3
・ 時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト	・ 遠隔画像診断
・ 胎児心エコー法	・ CT撮影及びMRI撮影
・ ヘッドアップティルト試験	・ 冠動脈CT撮影加算
・ 皮下連続式グルコース測定	・ 血流予備量比コンピューター断層撮影
・ 長期継続頭蓋内脳波検査	・ 外傷全身CT加算

・ 心臓MRI撮影加算	・ イタノールの局所注入(副甲状腺に対するもの)
・ 乳房MRI撮影加算	・ 人工腎臓
・ 小児鎮静下MRI撮影加算	・ 導入期加算
・ 頭部MRI撮影加算	・ 口腔粘膜処置
・ 全身MRI撮影加算	・ CAD/CAM冠
・ 抗悪性腫瘍剤処方管理加算	・ 皮膚悪性腫瘍切除術(センチネルリンパ節加算を算定する場合に限る。)
・ 外来化学療法加算1	・ 皮膚移植術(死体)
・ 無菌製剤処理料	・ 組織拡張器による再建手術(一連につき)(乳房(再建手術)の場合に限る。)
・ 心大血管疾患リハビリテーション料(I)	・ 椎間版内酵素注入療法
・ 脳血管疾患等リハビリテーション料(I)	・ 脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)&及び脳刺激装置交換術、脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
・ 運動器リハビリテーション料(I)	・ 内皮移植加算
・ 呼吸器リハビリテーション料(I)	・ 緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))
・ がん患者リハビリテーション料	・ 緑内障手術(水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)
・ 集団コミュニケーション療法料	・ 人工中耳植込術、人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
・ 救急患者精神科継続支援料	・ 内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻鏡手術)
・ 抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)	・ 鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)
・ 医療保護入院等診療料	・ 内視鏡下甲状腺部分切除、腺腫摘出術、内視鏡下バセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術(両葉)、内視鏡下副甲状腺(上皮小体)腺腫過形成手術
・ 硬膜外自家血注入	・ 内視鏡下甲状腺悪性腫瘍手術
・ イタノールの局所注入(甲状腺に対するもの)	・ 乳腺悪性腫瘍手術(乳がんセンチネルリンパ節加算1又は乳がんセンチネルリンパ節加算2を算定する場合に限る。)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの)) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
<ul style="list-style-type: none"> ・ ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 胸腔鏡下拡大胸腺摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 補助人工心臓
<ul style="list-style-type: none"> ・ 胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術及び胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 腹腔鏡下リンパ節群郭清術(傍大動脈)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(肺葉切除又は1肺葉を超えるもので、内視鏡手術用支援機器を用いる場合) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ バルーン閉塞下経静脈的塞栓術
<ul style="list-style-type: none"> ・ 内視鏡下筋層切開術 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃・十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腎(腎盂)腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、尿管腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)及び腔腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 腹腔鏡下肝切除術
<ul style="list-style-type: none"> ・ 経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生体部分肝移植術
<ul style="list-style-type: none"> ・ 胸腔鏡下弁形成術及び胸腔鏡下弁置換術 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 腹腔鏡下膵腫瘍摘出術及び腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
<ul style="list-style-type: none"> ・ 経カテーテル大動脈弁置換術 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 腹腔鏡下膵頭腫瘍切除術
<ul style="list-style-type: none"> ・ 経皮的僧帽弁クリップ術 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
<ul style="list-style-type: none"> ・ 磁気ナビゲーション加算 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 腹腔鏡下直腸切除・切断術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 経皮的中隔心筋焼灼術 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるもの)
<ul style="list-style-type: none"> ・ ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 膀胱水圧拡張術
<ul style="list-style-type: none"> ・ ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
<ul style="list-style-type: none"> ・ 両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人工尿道括約筋植込・置換術
<ul style="list-style-type: none"> ・ 植込型除細動器移植術、植込型除細動器交換術及び経静脈電極抜去術 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
<ul style="list-style-type: none"> ・ 両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)

・ 腹腔鏡下仙骨腫固定術	・ 放射線治療専任加算
・ 腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)	・ 外来放射線治療加算
・ 腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・ 高エネルギー放射線治療
・ 胃瘻造設術(内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。)	・ 1回線量増加加算
・ 医科点数表第2章第10部手術の通則の19に規定する手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する子宮付属器腫瘍摘出術に対する乳房切除術)	・ 強度変調放射線治療(IMRT)
・ 医科点数表第2章第10部手術の通則の19に規定する手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する乳房切除術に限る。)	・ 画像誘導放射線治療加算 (IGRT)
・ 輸血管理料 I	・ 体外照射呼吸性移動対策加算
・ 輸血適正使用加算	・ 定位放射線治療
・ 人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	・ 定位放射線治療呼吸性移動対策加算
・ 胃瘻造設時嚥下機能評価加算	・ 画像誘導密封小線源治療加算
・ 歯周組織再生誘導手術	・ 病理診断管理加算
・ レーザー機器加算の施設基準	・ 悪性腫瘍病理組織標本加算
・ 麻酔管理料(I)	・ クラウン・ブリッジ維持管理料
・ 麻酔管理料(II)	・ 移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)
・ 骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)	
・ 連携充実加算	

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
非小細胞肺癌の転移活性を評価し、術後補助化学療法の効果を予測するバイオマーカーの実用化に関する研究	久保田 馨	呼吸器内科	7,794,020	補 委	日本医療研究開発機構
周期的圧刺激によって制御される血管新生のシグナル伝達機構の解明	小川 令	形成外科・再建外科・美容外科	72,730,999	補 委	日本医療研究開発機構
末梢型肺癌に対する光線力学的治療に関する医師主導治験	臼田 実男	呼吸器外科	39,910,000	補 委	日本医療研究開発機構
致死性不整脈の原因心筋イオンチャネル遺伝子に同定されるVUSのハイスループット機能評価法に関する研究開発 【致死性不整脈の病因解明のための日本国内多施設登録】	村田 広茂	循環器内科	650,000	補 委	日本医療研究開発機構
全国患者レジストリJapan PH Registry のデータを活用し肺動脈性肺高血圧症に対するPrecision Medicine を実施するためのコンセプト策定研究	桑名 正隆	リウマチ・膠原病内科	650,000	補 委	日本医療研究開発機構
川崎病に伴う冠動脈後遺症の成人期の予後と移行医療の実態に関する研究	深澤 隆司	小児科	390,000	補 委	日本医療研究開発機構
非 HIV 免疫再構築症候群の疾患概念確立とバイオマーカーの研究開発	久保田 馨	呼吸器内科	1,300,000	補 委	日本医療研究開発機構
小児特有の脳腫瘍に対する標準治療確立のための全国多施設共同研究	前林 勝也	放射線治療科	130,000	補 委	日本医療研究開発機構
ピロリ菌除菌後健康人を対象とした世界初エビゲノム発がんリスク診断の実用化	貝瀬 満	内視鏡センター	650,000	補 委	日本医療研究開発機構
タンパク質・ペプチド修飾解析による早期がん・リスク疾患診断のための血液バイオマーカーの開発	野呂 林太郎	呼吸器内科	650,000	補 委	日本医療研究開発機構
「一過性骨髄異常増殖症に対する化学療法および白血病発症予防法の確立を目指した第2相臨床試験」の開発 【プロトコール作成進捗管理】	植田 高弘	小児科	263,963	補 委	日本医療研究開発機構
神経線維症型に対するペパシズマブの有効性及び安全性を検討する多施設共同二重盲検無作為化比較治験	森田 明夫	脳神経外科	5,200,000	補 委	日本医療研究開発機構
ウイルス等感染症患者用高洗浄閉空間システムの飛躍的高機能化	安武 正弘	総合診療科	2,600,000	補 委	日本医療研究開発機構
全身性強皮症に対する新規低分子化合物の有効性に関する研究	桑名 正隆	リウマチ・膠原病内科	130,000	補 委	日本医療研究開発機構
川崎病冠動脈瘤発症予防のための急性期治療難治例予測診断法開発に直結するエビデンス創出研究	深澤 隆司	小児科	247,000	補 委	日本医療研究開発機構
乳腺非触知病変摘出のための磁姓を用いたピンポイント検出システムの開発・海外展開 【臨床試験の実施】	武井 寛幸	乳腺科	550,000	補 委	日本医療研究開発機構

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
高解像度インピーダンスマンOMETRYを用いた嚥下評価と食道刺激による訓練法の開発	青柳 陽一郎	リハビリテーション科	1,430,000	補委	文部科学省
ノックアウトマウスを用いた腎虚血再灌流障害におけるEgr-1の果たす役割の解析	新井 正徳	救命救急科	650,000	補委	文部科学省
網膜色素変性モデルに対する水素水飲用による視細胞保護効果	五十嵐 徹	小児科	1,560,000	補委	文部科学省
緑内障における脳由来神経栄養因子(BDNF)の役割の解明と遺伝子治療法の開発	五十嵐 勉	眼科	1,430,000	補委	文部科学省
無菌性炎症からみた子宮内膜症発症メカニズムと新規治療法の開発	池田 真利子	女性診療科・産科	1,430,000	補委	文部科学省
開心術後心房細動を予防する革新的な心房局所に対する抗炎症薬剤徐放化システムの構築	石井 庸介	心臓血管外科	780,000	補委	文部科学省
microRNAを介した全身麻酔作用機序の検討	石川 真士	麻酔科・ペインクリニック	1,820,000	補委	文部科学省
PPI抵抗性逆流性食道炎を含めた逆流性食道炎発症に及ぼす唾液分泌の影響	岩切 勝彦	消化器・肝臓内科	1,820,000	補委	文部科学省
アレルギー疾患に対するアジュバント免疫療法の確立	大久保 公裕	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,170,000	補委	文部科学省
気管挿管患者に対する抜管後嚥下機能評価に基づく経口摂取開始と誤嚥性肺炎予防の研究	恩田 秀賢	救命救急科	650,000	補委	文部科学省
Liquid biopsy技術を加えた新たな胃癌進行度分類診断の研究	金澤 義一	消化器外科	1,430,000	補委	文部科学省
肺線維化環境での免疫担当細胞のクロストークおよび加齢影響と治療応用についての研究	神尾 孝一郎	呼吸器内科	1,820,000	補委	文部科学省
全身性強皮症に伴う心筋病変の形成における心筋指向性単球の解析	桑名 正隆	リウマチ・膠原病内科	1,560,000	補委	文部科学省
新たな早産予防戦略を指向した、子宮頸管における無菌性炎症とその制御機構の解明	桑原 慶充	女性診療科・産科	1,170,000	補委	文部科学省
内視鏡的手縫い縫合法における臨床的有用性の評価および新しい内視鏡治療手技の開発	後藤 修	女性診療科・産科	780,000	補委	文部科学省
舌下免疫療法によるマスト細胞脱顆粒抑制機構	後藤 穰	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,430,000	補委	文部科学省
新規流体チップデバイスによる尿路生殖器癌の循環腫瘍細胞捕捉に関する研究	近藤 幸尋	泌尿器科	1,950,000	補委	文部科学省
シングルセル解析による有棘細胞がんの腫瘍内不均一性の起源の探索	佐伯 秀久	皮膚科	1,690,000	補委	文部科学省
蘇生後脳症に対する神経幹細胞移植を用いた再生治療の確立と効率化	阪本 太吾	救命救急科	1,560,000	補委	文部科学省
重症頭部外傷に対する新規神経栄養因子を用いた再生治療の効率化	佐々木 和馬	救命救急科	910,000	補委	文部科学省

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
小児拡張型心筋症に対する肺動脈絞扼術の有効性の検討	佐々木 孝	心臓血管外科	910,000	補委 文部科学省
強皮症における石灰沈着症の分子機構の解明	白井 悠一郎	リウマチ・膠原病内科	1,690,000	補委 文部科学省
甲状腺微小乳頭癌の個別的管理のためのバイオマーカー探索と患者報告アウトカム研究	杉谷 巖	内分泌外科	1,560,000	補委 文部科学省
脳虚血後肺炎に対する歯髄由来幹細胞治療: 肺内免疫に注目し、治療応用の可能性を探る	須田 智	脳神経内科	1,430,000	補委 文部科学省
肺癌における血清エクソソーム非コードRNAを用いたがん免疫療法の効果予測	清家 正博	呼吸器内科	1,300,000	補委 文部科学省
乳癌の術前内分泌療法の新しい効果予測因子の検討ー血管新生からのアプローチ	武井 寛幸	乳腺科	1,300,000	補委 文部科学省
タウ蛋白および5-HT1B受容体PETによるアミロイド関連うつ病の病態解明研究	舘野 周	精神神経科	1,170,000	補委 文部科学省
PRMT5による新たなケロイド幹細胞制御機構の解明と新治療薬開発への挑戦	土佐 眞美子	形成外科・再建外科・美容外科	2,210,000	補委 文部科学省
悪性黒色腫特異的な新規腫瘍マーカーの臨床応用	帆足 俊彦	皮膚科	1,690,000	補委 文部科学省
睡眠障害は疼痛を増悪させるか? 睡眠が疼痛制御に及ぼす分子機構解明と治療介入の検討	間瀬 大司	外科系集中治療科	1,430,000	補委 文部科学省
内皮細胞のheterogeneityに着目した糸球体毛細血管網の維持機構の解明	三井 亜希子	腎臓内科	1,690,000	補委 文部科学省
肺癌の発癌・転移に関わる肺Microbiomeの同定と免疫療法との関連性の解明	宮永 晃彦	呼吸器内科	1,560,000	補委 文部科学省
エピジェネティクスを用いた全ゲノム解析による遺伝性不整脈疾患の新規発症機序の解明	村田 広茂	循環器内科	910,000	補委 文部科学省
血中腫瘍細胞に対する脾臓の役割の解明	吉田 寛	消化器外科	1,560,000	補委 文部科学省
人工知能と集中治療患者情報システムを用いた革新的な人工呼吸器離脱戦略	五十嵐 豊	救命救急科	1,560,000	補委 文部科学省
ボルテゾミブを用いた、Rhoを介した肺血管透過性亢進のメカニズムと治療法の解明	柏田 建	呼吸器内科	1,560,000	補委 文部科学省
先天性難聴児における遺伝子解析と言語発達との関連性	佐久間 直子	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,560,000	補委 文部科学省
急性期脳卒中患者に対する栄養療法の有用性に関する研究	鈴木 健太郎	脳神経内科	2,730,000	補委 文部科学省
逐次近似法を用いて上部消化管造影検査での早期胃癌の描出能を向上する	城 正樹	放射線科	260,000	補委 文部科学省
慢性腎臓病患者の血管合併症に対する新規治療薬の検証	谷 崇	腎臓内科	1,300,000	補委 文部科学省
外傷患者に対するトラネキサム酸の病院前投与の有効性と安全性に関する研究	中江 竜太	救命救急科	1,040,000	補委 文部科学省
アポトーシス調整因子を標的とした非小細胞肺癌の新規治療法の開発ー根治を目指してー	中道 真仁	呼吸器内科	780,000	補委 文部科学省

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
『新しい生活様式』に即した熱中症の診断・予防・治療法の確立のための研究	横堀 将司	救命救急科	11,950,000	補委 厚生労働省
自己免疫疾患に関する調査研究	伊藤 保彦	小児科	120,000	補委 厚生労働省
原発性高脂血症に関する調査研究	稲垣 恭子	糖尿病・内分泌代謝内科	150,000	補委 厚生労働省
血液凝固異常症等に関する研究	桑名 正隆	リウマチ・膠原病内科	800,000	補委 厚生労働省
強皮症・皮膚線維化疾患の診断基準・重症度分類・診療ガイドライン・疾患レジストリに関する研究	桑名 正隆	リウマチ・膠原病内科	200,000	補委 厚生労働省
自己免疫疾患に関する調査研究	桑名 正隆	リウマチ・膠原病内科	120,000	補委 厚生労働省
アレルギー疾患の多様性、生活実態を把握するための疫学研究	後藤 穰	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	100,000	補委 厚生労働省
自己免疫疾患に関する調査研究	五野 貴久	リウマチ・膠原病内科	120,000	補委 厚生労働省
間脳下垂体機能障害に関する調査研究	田原 重志	脳神経外科	400,000	補委 厚生労働省
先天性骨髄不全症の登録システムの構築と診断基準・重症度分類・診断ガイドラインの確立に関する研究	山口 博樹	血液内科	400,000	補委 厚生労働省
脳死下、心停止後の臓器・組織提供における効率的な連携体制の構築に資する研究	横堀 将司	救命救急科	400,000	補委 厚生労働省
障がい者の熱中症発生の実態に基づいた予防の支援方法に関する研究	横堀 将司	救命救急科	2,210,000	補委 厚生労働省

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院にお ける所属	題名	雑誌名	出版年月等	巻数・該当ページ	論文種別
1	Kuwana Masataka, Blair Christiana, Takahashi Tomohiko, et al.	リウマチ・膠原病内科	Initial combination therapy of ambrisentan and tadalafil in connective tissue disease- associated pulmonary arterial hypertension (CTD-PAH) in the modified intention-to-treat population of the AMBITION study: a post hoc analysis.	Ann. Rheum. Dis	2020年5月	第79巻 P626- 634	Original Article
2	Gono Takahisa, Masui Kenichi, Nishina Naoshi, et al.	リウマチ・膠原病内科	Risk prediction modeling based on a combination of initial serum biomarkers in myositis-associated interstitial lung disease.	Arthritis Rheumatol.	2021年4月	第73巻 P677- 686	Original Article
3	Kunishige Tomoyuki, Suzuki Hisaharu, Nakano Yuji, et al.	眼科	Evaluation of the utility of capsular stabilization devices in a zonular fiber defect model with the slit side view system.	J Ophthalmol	2020年8月	2020 Aug 8;2020:5921965	Original Article
4	Arima Takeshi, Igarashi Tutomu, Uchiyama Masaaki, et al.	眼科	Hydrogen promotes the activation of Cu, Zn superoxide dismutase in a rat corneal alkali-burn model	Int J Ophthalmol.	2020年8月	2020 Aug 18;13(8):1173- 1179.	Original Article
5	Arima Takeshi, Uchiyama Masaaki, Shimizu Akira et al.	眼科	Observation of corneal wound healing and angiogenesis using low-vacuum scanning electron microscopy.	Transl Vis Sci	2020年5月	2020 May 16;9(6):14.	Original Article
6	Nakano Yuji, Arima Takeshi, Tobita Yutaro, et al.	眼科	Combination of Peroxisome Proliferator-activated receptor (PPAR) alpha and gamma agonists prevents corneal inflammation and neovascularization in a rat alkali burn model.	Int J Mol Sci	2020年7月	2020; 21(14)	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院にお ける所属	題名	雑誌名	出版年月等	巻数・該当ページ	論文種別
7	Tobita Yutaro, Arima Takeshi, Nakano Yuji, et al.	眼科	Peroxisome proliferator-activated receptor beta/delta agonist suppresses inflammation and promotes neovascularization.	Int J Mol Sci	2020年7月	2020; 21(15)	Original Article
8	<u>Tomoko</u> <u>Kurita</u> , Taruno Kanae, Seigo Nakamura, et.al.	乳腺科	Magnetically Guided Localization Using a Guiding-Marker System® and a Handheld Magnetic Probe for Nonpalpable Breast Lesions: A Multicenter Feasibility Study in Japan	Cancers	2021年6月	13.2923(online) https://doi.org/10.3390/cancers13122923)	Original Article
9	Hirofumi Obinata, Shoji Yokobori , Kei Ogawa, et all	救命救急科	Indicators of Acute Kidney Injury as Biomarkers to Differentiate Heatstroke from Coronavirus Disease 2019: A Retrospective Multicenter Analysis	J Nippon Med Sch.	2021 Mar 11	88(1) :80-86	Original Article
10	Ryuta Nakae, Yu Fujiki, Yasuhiro Takayama, et all	救命救急科	Age-Related Differences in the Time Course of Coagulation and Fibrinolytic Parameters in Patients with Traumatic Brain Injury	Int J Mol Sci.	2020 Aug 5	21(16):5613.	Original Article
11	Toru Kurihara, Yutaka Igarashi, Kaori Kobai, et all.	救命救急科	Diagnosis and prediction of prognosis for Bickerstaff's brainstem encephalitis using auditory brainstem response: a case report	Acute Med Surg.	2020 Jun 2	7(1):e517	Case report
12	Shoj Yokobori, Tomoaki Yatabe, Yutaka Kondo, et all.	救命救急科	Efficacy and safety of tranexamic acid administration in traumatic brain injury patients: a systematic review and meta- analysis	Intensive Care	2020 Jul 3	8:46	Review
13	Hirofumi Obinata, Shoji Yokobori, Yasushi Shibata, et all	救命救急科	Early automated infrared pupillometry is superior to auditory brainstem response in predicting neurological outcome after cardiac arrest	Resuscitation	2020 Sep.	154:77-84.	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院にお ける所属	題名	雑誌名	出版年月等	巻数・該当ページ	論文種別
14	Soichiro Nakashima	精神神経科	Effects of anodal transcranial direct current stimulation on implicit motor learning and language-related brain function: An fMRI study	Psychiatry Clin Neurosci.	2021年6月	第75巻 200-207	Original Article
15	Takeshi Sakayori	精神神経科	Evaluation of dopamine D3 receptor occupancy by blonanserin using [11C]-(+)-PHNO in schizophrenia patients	Psychopharma cology	2021年5月	第238巻 1343-1350	Original Article
16	Takahiro Masuoka	精神神経科	Electroconvulsive therapy decreases striatal dopamine transporter binding in patients with depression: A positron emission tomography study with [18F]FE-PE2I	Psychiatry Res Neuroimaging	2020年7月	第301巻	Original Article
17	Kanamaru Takuya, Suda Satoshi, Muraga Kanako, et al.	脳神経内科	Pre-stroke cognitive impairment in acute ischemic stroke patients predicts poor functional outcome after mechanical thrombectomy	Neurol Sci	2021年3月	doi: 10.1007/s10072-021-05158-6.	Original Article
18	Suzuki Kentaro, Matumaru Yuji, Takeuchi Masataka, et al.	脳神経内科	Effect of Mechanical Thrombectomy Without vs With Intravenous Thrombolysis on Functional Outcome Among Patients With Acute Ischemic Stroke: The SKIP Randomized Clinical Trial	JAMA	2021年1月	第325巻 P244-253	Original Article
19	Hayashi Toshiyuki, Nomura Koichi, Nishiyama Yasuhiro, et al.	脳神経内科	Unilateral isolated trochlear nerve palsy due to ipsilateral midbrain infarction	J Nippon Med Sch	2021年1月	doi: 10.1272/jnms.JNMS.2021.88-515	Case report
20	Aoki Junya, Iguchi Yasuyuki, Utabe Takao, et al.	脳神経内科	Cilostazol Addition to Aspirin could not Reduce the Neurological Deterioration in TOAST Subtypes: ADS Post-Hoc Analysis	J Stroke Cerebrovasc Dis	2021年2月	第30巻 P105494	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院にお ける所属	題名	雑誌名	出版年月等	巻数・該当ページ	論文種別
21	Suda Satoshi, Nito Chikako, Yokobori Shoji, et al.	脳神経内科	Recent Advances in Cell-Based Therapies for Ischemic Stroke	Int J Mol Sci	2020年9月	第21巻 P6718	Review
22	Matsumoto Noriko, Takahashi Mizuho, Katano Takehiro, et al.	脳神経内科	Cholesterol Crystal in Thrombus Removed by Mechanical Thrombectomy Should be a Strong Marker for Aortogenic Embolic Stroke	J Stroke Cerebrovasc Dis	2020年10月	第29巻 P105178	Case report
23	Arakawa Masafumi, Suzuki Kentaro, Kutsuna Akihito, et al.	脳神経内科	Good recanalization is associated with long term favorable outcomes in acute stroke patients with large vessel occlusion treated with endovascular therapy	J Neurol Sci	2020年9月	第416巻 P117009	Original Article
24	Nagai Koichiro, Shimoyama Takashi, Yamagudhi Hiroki, et al.	脳神経内科	Clinical characteristics and brain MRI findings in myeloproliferative neoplasms	J Neurol Sci	2020年9月	第416巻 P116990	Original Article
25	Aoki Junya, Suzuki Kentaro, Kanamaru Takuya, et al.	脳神経内科	Association between mitral regurgitation and clinical outcome after endovascular thrombectomy in stroke patients	Neurol Sci	2020年7月	第42巻 P605-611	Original Article
26	Nishiyama Yasuhiro, Otsuka Toshiaki, Muraga Kanako, et al.	脳神経内科	Elevated cardio-ankle vascular index may be related to future stroke risk in Japanese subjects	J Neurol Sci	2020年8月	第415巻 P116862	Original Article
27	Aoki Junya, Suzuki Kentaro, Kanamaru Takuya, et al.	脳神経内科	Impact of complete recanalization on clinical recovery in cardioembolic stroke patients with M2 occlusion	J Neurol Sci	2020年8月	第415巻 P116873	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院にお ける所属	題名	雑誌名	出版年月等	巻数・該当ページ	論文種別
28	Arata Abe, anaka Mayui, Yasuoka Akihito, et al.	脳神経内科	Changes in Whole-Blood microRNA Profiles during the Onset and Treatment Process of Cerebral Infarction: A Human Study	Int J Mol Sci	2020年4月	第21巻 P3107	Original Article
29	Aoki Junya, Iguchi Yasuyuki, Utabe Takao, et al.	脳神経内科	Cilostazol uncovers covert atrial fibrillation in non-cardioembolic stroke	J Neurol Sci	2020年6月	第413巻 P116796	Original Article
30	Suda Satoshi, Nishimur a Takuya, Ishiwata Akiko, et al.	脳神経内科	Early Cognitive Impairment after Minor Stroke: Associated Factors and Functional Outcome	J Stroke Cereb	2021年5月	第29巻 P104749	Original Article
31	Suda Satoshi, Muraga Kanakano, Ishiwata Akiko, et al.	脳神経内科	Early Cognitive Assessment Following Acute Stroke: Feasibility and Comparison between Mini- Mental State Examination and Montreal Cognitive Assessment	J Stroke Cerebrovasc Dis	2021年4月	第29巻 P10468	Original Article
32	Shimoyama Takashi, Hayashi Hiroshi, Suzuki Fumiaki, et al.	脳神経内科	Idiopathic ventricular fibrillation and the V1764fsX1786 frameshift mutation of the SCN5A gene in a myotonic dystrophy type 1 patient	J Clin Neurosci	2020年4月	第74巻 P242-244	Case report
33	Sakamoto Yuki, Suzuki Kentaro, Abe Arata, et al.	脳神経内科	Reducing door-to-reperfusion time in acute stroke endovascular therapy using magnetic resonance imaging as a screening modality	J Neurointerv Surg	2020年11月	第12巻 P1080-1084	Original Article
34	Arakawa Masafumi, Yamazaki Mineo, Toda Yusuke, et al.	脳神経内科	An Oculopharyngeal Subtype of Guillain-Barré Syndrome Sparing the Trochlear and Abducens Nerves	Intern Med	2020年5月	第51巻 P1215-1217	Case report

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院にお ける所属	題名	雑誌名	出版年月等	巻数・該当ページ	論文種別
35	Takuma Iwai Takeshi Yamada Goro Takahashi et al.	消化器外科	Circulating cell-free long DNA fragments predict post-hepatectomy recurrence of colorectal liver metastases	European Jour	2020年1月	Volume 46, Issue 1, January 2020, Pages 108-114	Original Article
36	Takahiro Haruna Akihisa Matsuda Michihiro Koizumi et al.	消化器外科	Development of transomental hernia shortly after laparoscopic colonic surgery: a case report.	Surgical case reports	2020年1月	第6巻1号 P8-8	Case report
37	Takuma Iwai Hiroshi Makino Tadashi Yokoyama et al.	消化器外科	Laparoscopic Cholecystectomy During Pregnancy: A Case Report and Review of Literature in Japan.	Cureus	2020年4月	2020 Apr 12;12(4):e7656 (オンライン)	Case Reports
38	Akihisa Matsuda Takeshi Yamada Supaschin Jamjitrong et al.	消化器外科	Comparison between biweekly and weekly cetuximab in patients with metastatic colorectal cancer: A meta-analysis	Anticancer Research	2020年6月	第40巻 P3469-3476	Original Article
39	Toshiyuki Irie Takeshi Matsutani Nobutoshi Hagiwara et al.	消化器外科	Sarcoid-like reaction in lymphadenopathy associated with superficial esophageal squamous cell carcinoma.	Clinical journal	2020年6月	第13巻 P688-692	Case report
40	Seiji Kuroda Yoshitaka Miyagawa Yuriko Sato et al.	消化器外科	Protocol Optimization for the Production of the Non-Cytotoxic J Δ NI5 HSV Vector Deficient in Expression of Immediately Early Genes.	Molecular therapy. Methods & clinical development	2020年6月	第17巻 P612-621	Original Article
41	Takeshi Yamada Akihisa Matsuda Goro Takahashi et al.	消化器外科	Emerging RAS, BRAF, and EGFR mutations in cell-free DNA of metastatic colorectal patients are associated with both primary and secondary resistance to first-line anti-EGFR therapy.	International journal of clinical oncology	2020年8月	第25巻 P1523-1532	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院にお ける所属	題名	雑誌名	出版年月等	巻数・該当ページ	論文種別
42	Takeshi Yamada Akihisa Matsuda Goro Takahashi et al.	消化器外科	Emerging RAS, BRAF, and EGFR mutations in cell-free DNA of metastatic colorectal patients are associated with both primary and secondary resistance to first-line anti-EGFR therapy	International Journal of Clinical Oncology	2020年8月	第25巻 P1523-1532	Original Article
43	Yoshikazu Kanazawa Takeshi Yamada Daisuke Kakinuma et al.	消化器外科	Skeletal Muscle Mass Depletion After Gastrectomy Negatively Affects the Prognosis of Patients With Gastric Cancer.	Anticancer res	2020年8月	第40巻 P4271-4279	Original Article
44	Ryo Ohta Takeshi Yamada Keisuke Hara et al.	消化器外科	Oxaliplatin-induced increase in splenic volume: experiences from multicenter study in Japan.	International journal of clinical oncology	2020年8月	第25巻 P2075-2082	Original Article
45	Akihisa Matsuda Takeshi Yamada Satoshi Matsumoto et al.	消化器外科	Prognostic Role of the Platelet-to-Lymphocyte Ratio for Patients With Metastatic Colorectal Cancer Treated With Afibercept	In vivo (Athens, Greece)	2020年9月	第34巻 P2667-2673	Original Article
46	Toshimitsu Miyasaka Takeshi Matsutani Tutomu Nomura et al.	消化器外科	Laparoscopic repair of a Bochdalek hernia in an elderly patient: a case report with a review from 1999 to 2019 in Japan.	Surgical case reports	2020年9月	第6巻 P233-233	Case report
47	Masanori Atsukawa Akihito Tsubota Masaru Hatano et al.	消化器外科	Prevalence and characteristics of portopulmonary hypertension in cirrhotic patients who underwent both hepatic vein and pulmonary artery catheterization.	Hepatology research : the official journal of the Japan Society of Hepatology	2020年11月	第50巻 P1244-1254	Original Article
48	Nobutoshi Hagiwara Takeshi Matsutani Takahiro Haruna et al.	消化器外科	Pedunculated esophageal carcinoma endoscopically removed using SB knife Jr with detachable snare after neoadjuvant chemotherapy.	Clinical journal of gastroenterology	2020年12月	第13巻 P1036-1040	Case report

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院にお ける所属	題名	雑誌名	出版年月等	巻数・該当ページ	論文種別
49	Ryo Ohta Takeshi Yamada Keisuke Hara et al.	消化器外科	Oxaliplatin-induced increase in splenic volume: experiences from multicenter study in Japan.	International journal of clinical oncology	2020年12月	Volume 25 P2075-2082	Original Article
50	Reiko Shiomura , Nobuaki Kobayashi, Akihiro Shirakabe et al.	心臓血管集中治療科	Systolic blood pressure and cardiac mortality related to serum total bilirubin levels at admission in patients with acute heart failure.	Heart Vessels.	2021年1月	第36巻 P69-75	Original Article
51	Hiroshi Hayashi , Yu-Ki Iwasaki , Toshiki Arai et al.	循環器内科	Prognostic impact of newly detected atrial fibrillation in patients with hypertrophic cardiomyopathy following cardiac implantable electronic device implantation.	Heart Vessels.	2021年5月	第36巻 P69-76	Original Article
52	Hiroshi Hayashi , Wataru Shimizu, Yuki Iwasaki et al.	循環器内科	Efficacy of antitachycardia pacing for electrical storms in patients with implantable defibrillators.	J Cardiovasc Electrophysiol.	2021年3月	第32巻 P823-831	Original Article
53	Teppei Yamamoto, Yu- Ki Iwasaki, Yuhi Fujimoto et al.	循環器内科	The characteristics and efficacy of catheter ablation of focal atrial tachycardia arising from an epicardial site.	Clin Cardiol.	2021年4月	第44巻 P563-572	Original Article
54	Shuhei Tara, Takeshi Yamamoto, Shin Sakai et al.	循環器内科	Clinical characteristics, secondary prevention goal attainment, and outcomes of patients with recurrent acute coronary syndrome.	J Nippon Med Sch.	2021年3月	オンライン	Original Article
55	Yu-Ki Iwasaki, Yuhi Fujimoto, Eiichiro Oka et al.	循環器内科	Esophageal pressure monitoring for airway management during catheter ablation of atrial fibrillation.	Int J Cardiol Heart Vasc.	2021年5月	オンライン	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院にお ける所属	題名	雑誌名	出版年月等	巻数・該当ページ	論文種別
56	Wataru Shimizu , Takeshi Aiba	循環器内科	Notice of Retraction. Shimizu et al. Association of Genetic and Clinical Aspects of Congenital Long QT Syndrome With Life-Threatening Arrhythmias in Japanese Patients. JAMA Cardiol. 2019;4(3):246-254	JAMA Cardiol.	2021年6月	第6巻 P727	Original Article
57	Yukihiro Watanabe , Koichi Akutsu , Daisuke Yasui et al.	循環器内科	Successful Prophylactic Endovascular Therapy for a Rapidly Expanding Hepatic Arterial Aneurysm in a Patient with Vascular Ehlers-Danlos Syndrome.	Ann Vasc Dis.	2021年6月	第14巻 P163-167.	Original Article
58	Yoshiaki Kubota , Wan Ting Tay , Tiew-Hwa Katherine Teng et al.	循環器内科	Impact of beta-blocker use on the long-term outcomes of heart failure patients with chronic obstructive pulmonary disease.	ESC Heart Fail.	2021年6月	オンライン	Original Article
59	Shimizu W.	循環器内科	Extrinsic sex hormones rather than gender itself contribute directly to the electrocardiographic phenotype.	Heart Rhythm.	2021年7月	第14巻 P1210-1211.	Original Article
60	Kosuke Mozawa , Yoshiaki Kubota , Yu Hoshika et al.	循環器内科	Empagliflozin confers renoprotection in acute myocardial infarction and type 2 diabetes mellitus.	ESC Heart Fail.	2021年7月	オンライン	Original Article
61	Yu Hoshika , Yoshiaki Kubota , Kosuke Mozawa et al.	循環器内科	Effect of Empagliflozin Versus Placebo on Plasma Volume Status in Patients with Acute Myocardial Infarction and Type 2 Diabetes Mellitus.	Diabetes Ther.	2021年8月	第12巻 P2241-2248.	Original Article
62	Kenji Yodogawa , Takeshi Aiba , Naotaka Sumitomo et al.	循環器内科	Differential diagnosis between LQT1 and LQT2 by QT/RR relationships using 24-hour Holter monitoring: A multicenter cross-sectional study.	Ann Noninvasive Electrocardiol.	2021年7月	オンライン	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院にお ける所属	題名	雑誌名	出版年月等	巻数・該当ページ	論文種別
63	Reiko Shiomura , Shuhei Tara , Nobuaki Ito	心臓血管集中治療科	Hemodynamic Collapse Caused by Cardiac Dysfunction and Abdominal Compartment Syndrome in a Patient with Mitochondrial Disease.	Intern Med.	2021年8月	オンライン	Case report
64	Yu Hoshika , Yoshiaki Kubota , Kosuke Mozawa et al.	循環器内科	Effect of empagliflozin versus placebo on body fluid balance in patients with acute myocardial infarction and type 2 diabetes mellitus: subgroup analysis of the EMBODY trial.	J Card Fail.	2021年8月	オンライン	Original Article
65	Gotoh M, Okubo K, Yuta A, et al.	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Safety profile and immunological response of dual sublingual immunotherapy with house dust mite tablet and Japanese cedar pollen tablet	Allergol Int	2020 Jan	69(1):104-110	Original Article
66	Gotoh M, Kaminuma O, Nakaya A, et al.	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Association of Basophil-Expressing Genes with Effectiveness of Sublingual Immunotherapy	J Nippon Med Sch.	2020 Mar	11;87(1):49-52	Original Article
67	Gotoh M, Kaminuma O.	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Sublingual Immunotherapy: How Sublingual Allergen Administration Heals Allergic Diseases; Current Perspective about the Mode of Action	Pathogens	2021 Feb 2	10(2):147.	Review
68	Okubo K, Okano M, Sato N, et al.	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Add-On Omalizumab for Inadequately Controlled Severe Pollinosis Despite Standard-of- Care: A Randomized Study	J Allergy Clin Immunol Pract	2020 Oct	8(9):3130-3140.	Original Article
69	Koji Sohara, Tomonari Kiryama, Sunao Mizumura et.al.	放射線科	Diagnostic utility and characteristics of CT-based attenuation correction in brain perfusion SPECT/CT in predicting the exacerbation of Alzheimer changes from mild cognitive impair ent utilizing voxel-based statistical analysis in comparison with Chang's method.	Annals of Nuclear Medicine	2020年5月	volume34,pages 502-511	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院にお ける所属	題名	雑誌名	出版年月等	巻数・該当ページ	論文種別
70	Murakami R, Uchiyama N, Tani H et.al.	放射線科	Comparative analysis between synthetic mammography reconstructed from digital breast tomosynthesis and full-field digital mammography for breast cancer detection and visibility.	European Journal of Radiology Open	2020年7月	100207 1-7	Original Article
71	Ueda T, Murata S, Saito H et.al.	放射線科	Balloon-assisted Transcatheter arterial embolization using N-butyl cyanoacrylate for iatrogenic arterial bleeding by groin puncture: a new technology.	CVIR Endovascular	2020年8月	23;3(1):42.	Original Article
72	Murakami R, Tani H, Miki I et.al.	放射線科	Comparison between Visualization of Microcalcifications by Digital Breast Tomosynthesis and Full-Field Digital Mammography.	Open Journal of Radiology.	2020年10月	10(02):90-100.	Original Article
73	Masatoki Nakaza, Mitsuo Matsumoto, Tetsuro Sekine et.al.	放射線科	Dual-VENC 4D Flow MRI Can Detect Abnormal Blood Flow in the Left Atrium That Potentially Causes Thrombosis Formation after Left Upper Lobectomy.	Magn Reson Med Sci Published Online	2021年3月	0.2463/mrms.m p.2020-01	Original Article
74	Masanori Atsukawa	消化器・肝臓内科	Analysis of factors associated with the prognosis of cirrhotic patients who were treated with tolvaptan for hepatic edema	J Gastroenterol Hepatol	2020 Jul	35(7):1229-1237	Original Article
75	Osamu Goto	消化器・肝臓内科	Endoscopic hand-suturing is feasible, safe, and may reduce bleeding risk after gastric endoscopic submucosal dissection: a multicenter pilot study (with video)	Gastrointest Endosc	2020 May	91(5):1195-1202.	Original Article
76	Jun Omori	消化器・肝臓内科	Three-Dimensional Flexible Endoscopy Can Facilitate Efficient and Reliable Endoscopic Hand Suturing: An ex-vivo Study	Clin Endosc	2020 May	53(3):334-338.	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院にお ける所属	題名	雑誌名	出版年月等	巻数・該当ページ	論文種別
77	Kazutoshi Higuchi	消化器・肝臓内科	Usefulness of the flexible traction method in gastric endoscopic submucosal dissection: an in-vivo animal study	Surg Endosc	2020 Dec	34(12):5632-5639.	Original Article
78	Tetsuro Kawagoe	消化器・肝臓内科	Readministration of Cancer Drugs in a Patient with Chemorefractory Metastatic Colorectal Cancer	Case Rep Oncol Med	2020 Jun	23;2020:2351810	Case report
79	Masanori Atsukawa	消化器・肝臓内科	Prevalence and characteristics of portopulmonary hypertension in cirrhotic patients who underwent both hepatic vein and pulmonary artery catheterization	Hepatol Res	2020 Nov	50(11):1244-1254.	Original Article
80	Atsushi Tatsuguchi	消化器・肝臓内科	Influence of hypergastrinemia secondary to long-term proton pump inhibitor treatment on ECL cell tumorigenesis in human gastric mucosa	Pathol Res Pract	2020 Oct	216(10):153113.	Original Article
81	Masanori Atsukawa	消化器・肝臓内科	Real-World Clinical Application of 12-Week Sofosbuvir/Velpatasvir Treatment for Decompensated Cirrhotic Patients with Genotype 1 and 2: A Prospective, Multicenter Study	Infect Dis Ther	2020 Dec	9(4):851-866.	Original Article
82	Kazutoshi Higuchi	消化器・肝臓内科	Three-dimensional flexible endoscopy enables more accurate endoscopic recognition and endoscopic submucosal dissection marking for superficial gastric neoplasia: a pilot study to compare two- and three-dimensional imaging	Surg Endosc	2020 Oct	doi: 10.1007/s00464-020-08124-z.	Original Article
83	Norio Itokawa	消化器・肝臓内科	Sequential therapy from entecavir to tenofovir alafenamide versus continuous entecavir monotherapy for patients with chronic hepatitis B	JGH Open	2020 Nov	2;5(1):34-40.	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院にお ける所属	題名	雑誌名	出版年月等	巻数・該当ページ	論文種別
84	Mitsuru Kaise	消化器・肝臓内科	Epidemiology of colonic diverticula and recent advances in the management of colonic diverticular bleeding	Dig Endosc	2020 Jan	32(2):240-250.	Review
85	Noriyuki Kawami	消化器・肝臓内科	Validity of the Cutoff Value for Integrated Relaxation Pressure Used in the Starlet High-Resolution Manometry System	J Nippon Med Sch	2020 Jan	10;86(6):322-326.	Original Article
86	Naohiko Akimoto	消化器・肝臓内科	Clin Gastroenterol Hepatol	Clin Gastroenterol Hepatol	2020 Oct	18(11):e131.	Original Article
87	Yoshimasa Hoshikawa	消化器・肝臓内科	Possible new endoscopic finding in patients with achalasia: "Gingko leaf sign"	Esophagus	2020 Apr	17(2):208-213.	Original Article
88	Kohsuke Terada	腎臓内科	Improvement of multiple intraperitoneal nodules resembling peritoneal cancer that developed after peritoneal dialysis-related peritonitis caused by Mycobacterium abscessus with literature review: granuloma or carcinoma	Renal Replacement Therapy	2020年4月	6(23) 1-7	Case report
89	Sae Aratani	腎臓内科	Bacillus subtilis-associated abdominal catastrophe in a Japanese patient with peritoneal dialysis-related peritonitis	Cogent Medicine	2020年4月	7(1)	Case report
90	Kohsuke Terada	腎臓内科	Peritoneal Catheter Removal for Peritoneal Dialysis-Related Peritonitis Caused by Gram-Negative, Rod-Like Pseudomonas aeruginosa Infection During Antibiotic Therapy for Enterococcus faecalis.	Journal of Nippon Medical School	2020年12月	87(5) 304-308	Case report

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院にお ける所属	題名	雑誌名	出版年月等	巻数・該当ページ	論文種別
91	Kohsuke Terada	腎臓内科	Lower Limb Ulcer Associated with Peritonitis in Patients Undergoing Peritoneal Dialysis.	International journal of nephrology and renovascular disease	2021年1月	14 33-40	Original Article
92	Kohsuke Terada	腎臓内科	Plasma erythropoietin level and heart failure in patients undergoing peritoneal dialysis: a cross-sectional study	Renal Replacement Therapy	2021年1月	7(3) 1-8	Original Article
93	Sae Aratani	腎臓内科	Syndrome of Inappropriate Secretion of Antidiuretic Hormone Caused by Very Short-term Use of Proton Pump Inhibitor.	The Keio journal of medicine	2021年3月	70(1) 19-23	Case report
94	Fumihito Matano, Paolo di Russo, Atsushi Okano, et al.	脳神経外科	Oculomotor Neurofibroma: A Different Histology Implying an Unsatisfying Clinical Outcome.	World Neurosurgery 2020	2020年7月	第139巻 P31-38	Case report
95	Matano F, Suzuki M, Mizunari T, et al.	脳神経外科	Radial Artery Graft for Giant Common Carotid Artery Pseudoaneurysm After Carotid Artery Stenting.	World Neurosurgery 2020	2020年7月	第139巻 P401-404	Case report
96	Matano F, Mizunari T, Murai Y, et al.	脳神経外科	White Matter Lesions as Brain Frailty and Age are Risk Factors for Surgical Clipping of Unruptured Intracranial Aneurysms in the Elderly.	J Stroke Cerebrovasc Dis	2020年10月	第29巻 P105-121	Original Article
97	Matano F, Murai Y, Sato S, et al.	脳神経外科	Risk factors for ischemic complications in vascular reconstructive surgeries.	Clin Neurol Neurosurg	2020年6月	第193巻	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院にお ける所属	題名	雑誌名	出版年月等	巻数・該当ページ	論文種別
98	Shirokane K, Tamaki T, Kim K, et al.	脳神経外科	Relationship Between Flow- Mediated Endothelial Vasodilation And The Pulse Wave Velocity, And Cervical Carotid Artery Stenosis.	Neurol Med Chir	2020年6月	第60巻 P293- 298	Original Article
99	Shirokane K, Tamaki T, Kim K, et al.	脳神経外科	Subarachnoid Hemorrhage Attributable to Bilateral Aplastic or Twiglike Middle Cerebral Artery.	World Neurosurg	2020年2月	第130巻 P560- 563	Case report
100	Yasuo Murai 1, Kazutaka Shirokane 1, Takao Kitamura 1, Kojiro Tateyama 1, Fumihiro Matano 1, Takayuki Mizunari 2, Akio Morita 1	脳神経外科	Petrous Internal Carotid Artery Aneurysm: A Systematic Review	J Nippon Med Sch	2020年9月	2020 Sep 9;87(4):172- 183.	Review
101	Oda K, Noda M, Ishibashi T, Kogiku M, Abe K, Kishi H, et al	脳神経外科	Percutaneous transluminal angioplasty for suspected vertebral artery stump syndrome	Neuroradiol J.	2020年6月	33巻p520-4	Original Article
102	Koji Adachi, Shinichi Ansai, Fumio Yamaguchi, Yumi Igarashi, Akio Morita	脳神経外科	Anhidrosis in neurohypophyseal germinoma treated with CBDCA and VP-16	Neuro- Oncology Advances	2020年	2, 3(sup)	Original Article
103	Kim K, Nariai M, Kawauchi M, Morimoto D, Iwamoto N, Isu T, Morita A.	脳神経外科	Is the Vertebral Posterior Line a Safety Landmark for Cervical Posterior Screw Insertion? - Radiological Study of the Vertebral Artery in the Cervical Spine	Neurol Med Chir	2020年	60(4)	Original Article
104	Kim K, Isu T, Kokubo R, Iwamoto N, Morimoto D, Kawauchi M, Morita A.	脳神経外科	Therapeutic effect of mirogabalin on peripheral neuropathic pain due to lumbar spine disease	Asian Spine J	2021年6月	Epub 2020年9 月3日 書籍15巻(3)p 349-356	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院にお ける所属	題名	雑誌名	出版年月等	巻数・該当ページ	論文種別
105	Kim K, Isu T, Kokubo R, Morimoto D, Iwamoto N, Morita A.	脳神経外科	Less Invasive Combined Micro- and Endoscopic Neurolysis of Superficial Peroneal Nerve Entrapment – Technical note –	Neurol Med Chir	2021年5月	61巻p 297-301	Original Article
106	Kohei Hironaka, Shotaro Aso, Masanori Suzuki, Fumihiro Matano, Hiroyuki Matsui, Kiyohide Fushimi, Hideo Yasunaga, Akio Morita	脳神経外科	Outcomes in Elderly Japanese Patients Treated for Aneurysmal Subarachnoid Hemorrhage: A Retrospective Nationwide Study	Journal of Stroke and Cerebrovasc ular Diseases	2020年6月	9巻104795	Original Article
107	Kokubo R, Kim K, Isu T, Morimoto D, Iwamoto N, Morita A.	脳神経外科	Quality of life effects of pain from para-lumbar spine disease and lower limb peripheral nerve entrapment neuropathy and carpal tunnel syndrome.	Acta Neurochir	2020年6月	162巻P1431- 1437	Original Article
108	Higuchi T, Yamaguchi F, Asakura T, Yoshida D, Oishi Y, Morita A.	脳神経外科	Ultrasound Modulates Fluorescence Strength and ABCG2 mRNA Response to Aminolevulinic Acid in Glioma Cells.	J Nippon Med Sch.	2020年	87 巻 6 号 p. 310-317	
109	Nozaki T, Fujimoto A, Ichikawa N, Baba S, Enoki H, Okanishi T	脳神経外科	Higher intelligence may be a risk factor for post-operative transient disturbance of consciousness after corpus callosotomy.	Epilepsy and Behavior	2021年2月	115:107617	Case report
110	Nozaki T, Fujimoto A, Baba S, Enoki H, Okanishi T	脳神経外科	Postoperative persistent fever may be a risk factor for hydrocephalus in hemispherical disconnection surgery	Epilepsy and Behavior	2020年	112	Original Article
111	Nozaki T, Noda M, Ishibashi T, Otani K, Kogiku M, Abe K, Kishi H, Morita A.	脳神経外科	Distal vessel imaging via intra- arterial flat-panel detector computed tomography angiography during mechanical thrombectomy	America journal of neuroradiolo gy	2021年1月	42 (2) :306-312	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院にお ける所属	題名	雑誌名	出版年月等	巻数・該当ページ	論文種別
112	Nozaki T, Noda M, Ishibashi T, Morita A.	脳神経外科	Ruptured hidden intracranial aneurysm during mechanical thrombectomy: A case report	Surgical Neurology International	2020年12月	11:446	Case report
113	Hattori Y, Tahara S, Aso S, Matsui H, Fushimi K, Yasunaga H, et al	脳神経外科	Pituitary surgery's epidemiology using a national inpatient database in Japan.	Acta Neurochir (Wien)	2020年6月	162巻p1317-23.	Original Article
114	Yujiro Hattori, Hirotaka Ishii, Shimpei Higo, Mai Otsuka, Moeko Kanaya, Keisuke Matsumoto, Mina Ozawa, Hitoshi Ozawa	脳神経外科	Optimization of immunohistochemical detection of rat ESR2 proteins with well-validated monoclonal antibody PPZ0506 Molecular and Cellular Endocrinology	Molecular and Cellular Endocrinology	2021年3月	523	Original Article
115	Yujiro Hattori, Hirotaka Ishii, Shigeyuki Tahara, Akio Morita, Hitoshi Ozawa	脳神経外科	Quantitative data on expression of human estrogen receptor α variants in non-functioning pituitary adenomas using RT-digital PCR	Data in Brief	2020年	オンラインで公開2020年10月22日	Original Article
116	Yujiro Hattori, Hirotaka Ishii, Shigeyuki Tahara, Akio Morita, Hitoshi Ozawa	脳神経外科	Accurate assessment of estrogen receptor profiles in non-functioning pituitary adenomas using RT-digital PCR and immunohistochemistry	Life Sciences	2020年	Epub 2020年9月11日	Original Article
117	Yujiro Hattori, Shigeyuki Tahara, Shotaro Aso, Hiroki Matsui, Kiyohide Fushimi, Hideo Yasunaga, Akio Morita	脳神経外科	MON-274 Analysis of Perioperative Prophylactic Steroid for Pituitary Surgery Using a National Inpatient Database in Japan	Journal of the Endocrine Society	2020年4月	Supplement_1	Original Article
118	Daijiro Morimoto, Kyongsong Kim, Asami Kubota, Rinko Kokubo, Naotaka Iwamoto, Yujiro Hattori, Akio Morita	脳神経外科	Recurrent Cervical Spinal Epidural Hematoma: Case Report and Literature Review	NMC case report journal	2020年4月	7巻p157-160	Case report

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院にお ける所属	題名	雑誌名	出版年月等	巻数・該当ページ	論文種別
119	Kitagawa Y, Tsunoda Y, Nanno M 他	整形外科・リウマチ外科	Combined Use of Magnetic Resonance Imaging and Fine-Needle Aspiration Cytology for Diagnosis of Soft-Tissue Tumors	J Nippon Med Sch	2020年4月	第87巻(2) P54-59	Original Article
120	Sasatani K, Majima T, Murase K 他	整形外科・リウマチ外科	Three-Dimensional Finite Analysis of the Optimal Alignment of the Tibial Implant in Unicompartmental Knee Arthroplasty	J Nippon Med Sch	2020年4月	第87巻(2) P60-65	Original Article
121	Iwashita S, Hashiguchi H, Okubo A 他	整形外科・リウマチ外科	Nerve Block for Pain Relief During Arthroscopic Rotator Cuff Repair	J Nippon Med Sch	2020年4月	第87巻(2) P87-89	Case report
122	Tomori Y, Nanno M, Takai S	整形外科・リウマチ外科	Quick Arthroscopic Repair of Ulnar-Sided Triangular Fibrocartilage Complex Tears: Technical Note	J Nippon Med Sch	2020年4月	第87巻(2) P104-108	Others
123	Kitagawa Y, Sudo Y, Tsunoda R 他	整形外科・リウマチ外科	Association of Magnetic Resonance Imaging Features with Angioleiomyoma Histologic Subtype	J Nippon Med Sch	2020年12月	第87巻 P318-324	Original Article
124	Kitagawa Y, Takai S	整形外科・リウマチ外科	Optimal Treatment for Tenosynovial Giant Cell Tumor of the Hand	J Nippon Med Sch	2020年8月	第87巻(4) P184-190	Review
125	Kataoka T, Oshima Y, Iizawa N 他	整形外科・リウマチ外科	Influence of Total Knee Arthroplasty on Hip Rotational Range of Motion	J Nippon Med Sch	2020年8月	第87巻(4) P191-196	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院にお ける所属	題名	雑誌名	出版年月等	巻数・該当ページ	論文種別
126	Iizawa N, Oshima Y, Kataoka T 他	整形外科・リウマチ外科	Effect of Medial Osteophyte Removal on Correction of Varus Deformity in Total Knee Arthroplasty	J Nippon Med Sch	2020年8月	第87巻(4) P215-219	Original Article
127	Sano M, Oshima Y, Murase K 他	整形外科・リウマチ外科	Finite-Element Analysis of Stress on the Proximal Tibia After Unicompartmental Knee Arthroplasty	J Nippon Med Sch	2020年10月	第87巻(5) P260-267	Original Article
128	Kitagawa Y, Sudo Y, Tsunoda R 他	整形外科・リウマチ外科	Association of Magnetic Resonance Imaging Features with Angioleiomyoma Histologic Subtype	J Nippon Med Sch	2020年12月	第87巻(6) P318-324	Original Article
129	Kitagawa Y, Kim Y, Tsunoda R 他	整形外科・リウマチ外科	Association of Pedicle Sign Type with Clinical and Radiological Features in Patients with Symptomatic Spinal Metastases Yasuyuki Kitagawa, Yong Kim, Ryu Tsunoda and Shinro Takai J Nippon Med Sch 2021; 88: 25-31	J Nippon Med Sch	2021年2月	第88巻(1) P25- 31	Original Article
130	Sakaguchi M, Nakajima N, Yamaguchi H, et al.	血液内科	The sensitivity of the FLT3-ITD detection method is an important consideration when diagnosing acute myeloid leukemia.	Leuk Res Rep.	2020年4月	13巻・100198	Original Article
131	Yamaguchi H, Inokuchi K.	血液内科	No sex-related difference in achievement of treatment-free remission following treatment with tyrosine kinase inhibitors in chronic myeloid leukemia.	Int J Hematol.	2020年6月	111(6)巻・904	Letter
132	Omori I, Yamaguchi H, Hirakawa T, et al.	血液内科	Outcomes of Patients with Early Hyperbilirubinemia after Allogeneic Hematopoietic Stem Cell Transplantation	J Nippon Med Sch.	2020年6月	87(3)巻・142- 152	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院にお ける所属	題名	雑誌名	出版年月等	巻数・該当ページ	論文種別
133	Marumo A, Yamaguchi H, Hirakawa T, et al.	血液内科	Presence of promyelocytes in peripheral blood as a novel predictor of the optimal timing for single-step peripheral blood stem cell collection.	J Nippon Med Sch.	2021年3月	88(1)巻・45-53.	Original Article
134	Sakaguchi M, Nakayama K, Yamaguchi H, et al.	血液内科	Risk Factors for Acute Kidney Injury and Chronic Kidney Disease following Allogeneic Hematopoietic Stem Cell Transplantation for Hematopoietic Malignancies	Acta Hematologica	2020年9月	143(5)巻・452-464	Original Article
135	Yamaguchi H.	血液内科	Significance of detecting minimal/measurable residual disease utilizing genetic mutations in acute myeloid leukemia	Rinsho Ketsueki	2020年8月	61(8)巻・965-970.	Review
136	Yamaguchi H.	血液内科	Genetic analysis and targeted therapy for acute myeloid leukemia	Rinsho Ketsueki	2020年4月	61(4)巻350-357.	Review
137	Yamaguchi H.	血液内科	Importance of gene mutation analysis as prognostic factor of acute myeloid leukemia	Rinsho Ketsueki	2020年9月	61(9)巻・1160-1165.	Review
138	Nagao Mototsugu, Fukuda Izumi, Asai Akira, et al.	糖尿病・内分泌代謝内科	Diagnostic potential of miR-483 family for IGF-II producing non-islet cell tumor hypoglycemia.	Eur J Endocrinol	2021年1月	第184巻 P41-49	Original Article
139	Hada-Okazaki Mikiko, Moriya Ayako, Nagao Mototsugu, et al	糖尿病・内分泌代謝内科	Different pathogenesis of glucose intolerance in two subtypes of primary aldosteronism: aldosterone-producing adenoma and idiopathic hyperaldosteronism.	J Diabetes Investig	2020年12月	第11巻 P1511-1519	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院にお ける所属	題名	雑誌名	出版年月等	巻数・該当ページ	論文種別
140	Nakamura Yuko, Nagao Mototsugu, Kobayashi Shunsuke, et al.	糖尿病・内分泌代謝内科	Insulin and heparin challenge tests are useful for choosing an optimal insulin regimen in a case of subcutaneous insulin resistance.	J Diabetes Investig	2020年10月	第11巻 P1370-1373	Case report
141	Asai Akira, Nagao Mototsugu, Hayakawa Koji, et al.	糖尿病・内分泌代謝内科	Leptin production capacity determines food intake and susceptibility to obesity-induced diabetes in Oikawa-Nagao Diabetes-Prone and Diabetes-Resistant mice.	Diabetologia	2020年9月	第63巻 P1836-1846	Original Article
142	Nagao Mototsugu, Esguerra L.S. Jonathan, Asai Akira, et al.	糖尿病・内分泌代謝内科	Potential protection against type 2 diabetes in obesity through lower CD36 expression and improved exocytosis in β -cells.	Diabetes	2020年6月	第69巻 P1393-1205	Original Article
143	Inagaki Kyoko, Nagao Mototsugu, Harada Taro, et al.	糖尿病・内分泌代謝内科	Sitagliptin improves plasma apolipoprotein profile in type 2 diabetes: A randomized clinical trial of sitagliptin effect on lipid and glucose metabolism (SLIM) study.	Diabetes Res Clin Pract	2020年4月	第162巻 P108-119	Original Article

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有 無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有 無
・ 手順書の主な内容 研究の種類、審査委員会と窓口、研究内容と審査機関、臨床研究実施の流れ、研究計画書作成ならびに申請時の注意事項、研究計画の事前登録、学外での研究計画書の審査依頼について、相談窓口	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年12回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有 無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有 無
・ 規定の主な内容 委員会の構成、審議事項、利益相反マネジメントのプロセス、 臨床研究に係る利益相反の審議に関する倫理委員会との関係 利益相反マネジメントの管理の方法等	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年2回 (ただし特例案件107件)

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年1回
・ 研修の主な内容 臨床研究に関する法令・指針等の改正について 臨床研究審査申請システム (BV Clinical-CRB ; 臨床研究法対応版) について	

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

当院の専門研修プログラムは、2年間の必修初期臨床研修の終了後、さらに臨床医学に関する知識と技能を向上させ、より専門的な臨床研修を行うためのものである。平成30年度より、新たな専門医制度が始まり、基本領域学会及び日本専門医機構の審査・認定を受けた専門研修プログラムに基づき、各領域で専門医取得や大学院進学等につながる多彩な研修コースを提示している。日本医科大学付属病院、武蔵小杉病院、多摩永山病院、千葉北総病院の四つの付属病院において、それぞれの特色を生かした診療体制の中でローテーションが可能であり、高度な医療、先進医療の研修を可能にしている。愛と研究心を有し、質の高い医療を求める国民のニーズに応えうる人材の育成を目指す。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	218.34人
-------------	---------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
清水 渉	循環器内科	部長	36年	R2.4.1 ~ R3.1.14
岩崎 雄樹	循環器内科	部長	25年	R3.1.15 ~ R3.3.31
木村和美	脳神経内科	部長	35年	
酒井行直	腎臓内科	部長	29年	
猪口孝一	血液内科	部長	40年	
岩切勝彦	消化器・肝臓内科	部長	35年	
杉原 仁	内分泌代謝内科	部長	38年	
清家正博	呼吸器内科	部長	29年	
安武正弘	老年内科	部長	36年	
大久保善朗	精神科	部長	41年	
伊藤保彦	小児科	部長	38年	
佐伯秀久	皮膚科	部長	30年	
岸川洋昭	麻酔科	部長	26年	
汲田伸一郎	放射線科	部長	35年	R2.4.1 ~ R3.1.31
林 宏光	放射線科	部長	34年	R3.2.1 ~ R3.3.31
吉田 寛	消化器外科	部長	35年	
杉谷 巖	内分泌外科	部長	32年	
石井庸介	心臓血管外科	部長	28年	
臼田実男	呼吸器外科	部長	27年	
森田明夫	脳神経外科	部長	39年	
高橋 浩	眼科	部長	38年	
大久保公裕	耳鼻いんこう科	部長	37年	
竹下俊行	産婦人科	部長	40年	
近藤幸尋	泌尿器科	部長	36年	
眞島任史	整形外科	部長	37年	
小川 令	形成外科	部長	22年	

横堀将司	救急科	部長	22年	
桑名正隆	リウマチ科	部長	33年	
廣田 薫	漢方内科	部長	32年	
清水 章	病理診断科	部長	36年	R2.4.1 ~ R2.4.30
大橋隆治	病理診断科	部長	29年	R2.5.1 ~ R3.3.31
久野彰子	歯科	部長	28年	
木村和美	リハビリテーション科	部長	35年	

- (注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
- (注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 ②. 現状
管理責任者氏名	院長 汲田 伸一郎
管理担当者氏名	各部署長

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	庶務課
		各科診療日誌	電子カルテ内サーバー
		処方せん	電子カルテ内サーバー
		手術記録	電子カルテ内サーバー
		看護記録	電子カルテ内サーバー
		検査所見記録	電子カルテ内サーバー
		エックス線写真	電子カルテ内サーバー
		紹介状	電子カルテ内サーバー
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	電子カルテ内サーバー
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	庶務課
		高度の医療の提供の実績	医事課
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	庶務課
		高度の医療の研修の実績	各部署
		閲覧実績	庶務課
		紹介患者に対する医療提供の実績	電子カルテ内サーバー
	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	庶務課、薬剤部
		医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理部
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理部
			電子保存管理 病院外持出の運用は無い
			ファイル、P Cによる 保存管理
			ファイル、P Cによる 保存管理

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一	院内感染対策のための指針の策定状況	ファイル、PCによる保存管理
	第二条	院内感染対策のための委員会の開催状況	
	第三号	従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	
	第四号	感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	
	第五号	医薬品安全管理責任者の配置状況	
	第六号	従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	
	第七号	医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
	第八号	医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
	第九号	医療機器安全管理責任者の配置状況	
	第十号	従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	
		ME部	

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御室
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療安全管理部
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	診療録管理室
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全管理部
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理部
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理部
		監査委員会の設置状況	法人総務部、庶務課
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理部
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全管理部
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全管理部
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	庶務課
		職員研修の実施状況	庶務課
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	庶務課
管理者が有する権限に関する状況	法人本部総務部		
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	法人本部監査室		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	法人秘書室		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	②. 現状	
閲覧責任者氏名	院長 汲田 伸一郎		
閲覧担当者氏名	庶務課 課長 樋口 憲二		
閲覧の求めに応じる場所	閲覧室		
閲覧の手続の概要			
閲覧についての書類を受取後、対応			

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	件
閲覧者別	医師	延 件
	歯科医師	延 件
	国	延 1 件
	地方公共団体	延 1 件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療安全管理に関する基本的考え方 2. 医療に係る安全管理の組織に関する基本的事項 3. 医療安全管理のための職員研修に関する基本的事項 4. 事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針 5. 医療事故発生時の対応に関する基本方針 6. 当院と患者との間の情報の共有に関する基本方針 7. 患者からの相談への対応に関する基本方針 8. 高難度新規医療技術等を用いた医療の提供 9. 未承認新規医薬品等を用いた医療の提供 10. その他医療安全の推進のために必要な基本方針 	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<p>・ 設置の有無（有・無）</p> <p>・ 開催状況：年12回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療の安全管理の総括に関すること 2. 医療安全管理指針及び医療安全マニュアルの策定及び変更に関すること 3. 重大な医療事故等に関する原因究明のための調査及び分析に関すること 4. 前号の分析結果を活用した医療事故等防止方策の立案及び実施ならびに従業者への周知に関すること 5. 医療事故等防止方策の実施状況の調査及び見直しに関すること 6. 死亡退院事例報告の実施状況の確認及び確認結果の院長への報告ならびに従業者への研修及び指導に関すること 7. 医療法（昭和23年法律第205号）第6条の11に規定する医療事故調査及び医療事故調査等支援団体に関すること 8. 高難度新規医療技術等を用いた医療の提供 9. 未承認新規医薬品等を用いた医療の提供 10. その他医療安全管理に関すること 	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年3回
<p>・ 研修の内容（すべて）：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 令和2年度 第1回 医療安全管理研修講演会 開催期間：令和3年2月16日～令和3年3月26日（eラーニング形式） 演題：医療事故調査報告制度の現状と課題 講師：浜松医科大学医学部医療法学 教授（弁護士） 大磯 義一郎 2. 令和2年度 個人情報保護研修講演会 開催期間：令和3年2月10日～令和3年3月26日（eラーニング形式） 演題：医療機関におけるセキュリティ対策 講師：厚生労働省医政局 研究開発振興課医療情報技術推進室 3. 令和2年度 第2回 医療安全管理研修講演会 開催期間：令和3年3月16日～令和3年3月26日（eラーニング形式） 演題：コミュニケーションが困難であった事例から学ぶリスクマネジメント 講師：浜松医科大学医学部医療法学 教授（弁護士） 大磯 義一郎 	

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有 ・ 無)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容 :

1. 医療安全管理集中管理システム（セーフマスター）での管理
2. 医療安全管理に関する規定（指針・ガイドライン・マニュアル）の改正
3. 医療安全管理の手引きの改正・配布
4. リスクマネージャ会議（月1回）における改善方策周知
5. 院内リスクアナウンス（安全情報等）の周知確認登録
（電子カルテシステム画面を利用したポータルサイト、院内FAX等）

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 指針の主な内容： ● 医療安全の手引き（年1回改訂）各論編4、5の項に院内感染対策のための指針として提示 院内感染対策の実際については、病院感染対策マニュアル（随時改訂）として整備 	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年12回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動の主な内容： ● 病院感染対策委員会・感染管理マネージャー会議として、月1回開催 定例報告：疫学月報、ICT活動報告、AST活動報告、栄養科報告など その他：COVID-19院内状況共有、感染症法関連通知等報告など 	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年5回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の内容（すべて）： ● 院内感染対策研修講演会（年2回）：全従業員を対象 <ol style="list-style-type: none"> 1. 第1回：「新型コロナウイルス感染症 私たちの暮らしの中の感染対策」 2020年12月16日から2020年12月28日まで（DVD配布による開催） 2. 第2回：「見直そう、院内感染対策の基本と正しい手順」 2021年3月9日から2021年3月26日まで（eラーニングシステム掲載による開催） ● 抗菌薬適正使用に関する講習（年1回） 「耐性菌対策と抗菌薬の適正使用」 2021年3月22日から3月26日まで（eラーニングシステム掲載による開催） ● 感染症レクチャー：内科専攻医委員会、臨床研修センターと協働 <ol style="list-style-type: none"> 1. 第1回：「新型コロナウイルス感染症 私たちの暮らしの中の感染対策」 2020年10月14日開催（WEB形式） 2. 第2回：「ようこそ めくるめく血液培養の世界へ」2020年11月11日開催（WEB形式） 	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院における発生状況の報告等の整備 （有・無） ・ その他の改善のための方策の主な内容： ● 事象毎に発生報告書を作成、それをもとに、院長報告、委員会報告を実施 ・ COVID-19確定者との濃厚接触が確認された入院患者報告（2020年6月24日） ・ 放射線科派遣職員COVID-19確定者と接触者健診に関する報告（2020年6月26日） ・ 本館8階南病棟入院患者における带状疱疹汎発疹診断と対応について（2020年6月26日） ・ 精神神経科医師COVID-19確定者と接触者健診に関する報告書（2020年7月31日） ・ 心臓血管外科医師COVID-19確定者と接触者健診に関する報告書（2020年8月14日） ・ 高度救命救急センターにおけるバンコマイシン耐性腸球菌（VRE）保菌患者の発生と対応について（2020年8月14日） 	

- ・ 心臓血管集中治療科医師COVID-19確定者と接触者健診に関する報告書（2020年9月11日）
- ・ 外科系集中治療科看護師COVID-19確定者と接触者健診に関する報告書（2020年11月25日）
- ・ 整形外科医師COVID-19確定者と接触者健診に関する報告書（2020年12月12日）
- ・ 形成外科入院患者からのCOVID-19感染者発生と接触者健診に関する報告書（2020年12月19日）
- ・ 総合診療科看護師COVID-19確定者と接触者健診に関する報告書（2020年12月25日）
- ・ 脳卒中集中治療科入院患者からのCOVID-19感染者発生と接触者健診に関する報告書（2021年1月14日）
- ・ 東館4階病棟におけるバンコマイシン耐性腸球菌（VRE）発生報告について（2021年1月25日）
- ・ 医事課派遣職員COVID-19確定者と接触者健診に関する報告書（2021年1月29日）
- ・ 関節鏡下膝手術患者における手術部位感染症事象に関する報告（2021年2月19日）

- ・ その他の改善のための方策の主な内容：
 - 感染症発生部署での事象説明会・感染対策実技レクチャー
 - ・ 東館4階病棟クロストリディオイデス・ディフィシル発生事象説明会（2021年2月16日開催）
 - ・ 東館4階病棟バンコマイシン耐性腸球菌（VRE）発生事象説明会、感染対策（講義、実技演習）研修（2021年2月26日）

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	○有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年1回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容：医薬品の安全使用のための研修（最近の医薬品関連の事故、事件、薬剤部からの医薬品安全性情報、日本医療評価機構からの、医薬品に関する安全性情報） 	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 手順書の作成（○有・無） ・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容：業務の主な内容：年2回（3-9月）薬剤部、病棟、外来、医局長、薬事委員に対して、その実施状況についてチェックリストを用いて確認。 	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品に係る情報の収集の整備（○有・無） ・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）：進行期HER2遺伝子陽性非小細胞肺癌に対するエンハーツの適応外使用 当院倫理審査委員会にて審査し承認を受けており、適切なICが行われたうえで使用されている。3ヶ月に一度投与後のモニタリングを行っている。 ・ その他の改善のための方策の主な内容：薬品情報室が厚生労働省HP、PMDA、メーカー各社HP、製造販売業者HP、学術誌にて情報を収集している。得られた医薬品の情報のうち必要なものについて医薬品を取り扱う職員に対して以下の方法にて周知している。部長会、医長会（院内会議）での周知。電子カルテの掲示板機能を利用しての周知。医薬品情報（毎月）、薬剤部ニュース（随時）を作成し、各部署に配布することによる周知。 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 82回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>1) 特定機能病院における定期研修 2020年4月28日 血液浄化 2020年5月19日 人工呼吸器 2020年5月 ME機器（人工呼吸器、除細動器など） DVD配布 その他 20回</p> <p>2) 新しい医療機器の導入時の研修 2020年4月2日 重要パラメーター付き多項目モニタ 2020年6月19日 脊椎手術用機器 2020年7月7日 心内膜植込み型ペースメーカーリード その他 28回その他必要に応じた研修</p> <p>3) その他必要に応じた研修 2020年4月20日 麻酔器、電気メス、体温管理装置 2020年4月28日 人工呼吸器 2020年6月10日 医療ガス、医療機器 その他 25回</p>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る計画の策定 (有・無)</p> <p>・ 機器ごとの保守点検の主な内容：</p> <p><保育器> 策定日：2020年3月 実施予定日：4月、7月、10月、1月 実施日：4月、7月、10月、1月</p> <p><除細動器> 策定日：2020年3月 実施予定日：5月、8月、11月、2月 実施日：5月、8月、11月、2月</p>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集 その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無)</p> <p>・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）：なし</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>PMDA、JCQHC等から発信される医療安全情報、医療機器製造および販売業者より発信される安全使用のための情報を収集し保管している。また、周知が必要な内容については院内へのME部位新聞発行および医療機器の安全管理研修で周知と報告をしている。医療機器の使用中のトラブルについても集計し院内勉強会などで周知をしている。</p>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
<p>・ 責任者の資格 (医師・歯科医師)</p> <p>・ 医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>医療安全管理責任者は、医療安全管理部、医療に係る安全管理のための委員会、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者、医療放射線安全管理責任者を統括</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 (1名) ・ 無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・ 医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>添付文書、製造販売業者、行政・PMDA、学術誌などから情報を収集し、医薬品情報や薬剤部ニュースを作成し、部長会、医長会、医局、病棟などに配布し、電子カルテのポータルサイトでも確認できるようにしている。安全性情報が出た際には、前述の各媒体で周知するとともに、該当医薬品を使用している患者では、主治医へ連絡を行う。医薬品安全管理責任者はこれらの業務を薬剤部カンファレンス、日誌等で定期的に確認している。また、部長会等で医薬品情報に関するプレゼンテーションを行なっている。</p> <p>・ 未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>未承認新規医薬品等の使用状況の把握等を適切に実施するための担当者を薬剤部病棟部門長とさだめ、病棟薬剤師が実施している。未承認新規医薬品等の使用予定の情報が薬剤部に入った場合には、担当医師に未承認新規医薬品等を用いた医療の実施に関する申請受付および審査は、医療安全管理部（未承認新規医薬品等管理室）で行なっている旨、情報提供を行なっている。また、禁忌薬や適応外使用に関しては、担当医師に倫理審査委員会での審査が必要な旨、情報提供を行なっている。薬剤名、使用目的、使用する診療科、関連するエビデンスの確認等の情報収集を行っている。</p> <p>・ 担当者の指名の有無 (○有・無)</p> <p>・ 担当者の所属・職種：</p> <p>(所属：薬剤部， 職種 薬剤師伊勢雄也) (所属：薬剤部， 職種 薬剤師稲毛俊介)</p> <p>(所属：薬剤部， 職種 薬剤師林太祐) (所属：薬剤部， 職種 薬剤師岸田悦子)</p> <p>(所属： ， 職種) (所属： ， 職種)</p> <p>(所属： ， 職種) (所属： ， 職種)</p>	

④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有・無
<p>・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (有・無)</p> <p>・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイドラインの目的 2. インフォームド・コンセントに対する姿勢 3. 原則 4. インフォームド・コンセントを行うべきとき、書式、同意書書式などの細目について 5. インフォームド・コンセントガイドライン細則 <p>各診療科のカンファレンス実施時に、上級委によりインフォームド・コンセントが適切に行われているかを確認している。</p>	
⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有・無
<p>・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：</p> <p>診療録等の適正な記載を目的として診療録等の監査を行う。</p> <p>なお、記載内容が不十分と思われる場合は適正な指導を行う。</p>	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有・無
<p>・所属職員：専従（14）名、専任（2）名、兼任（14）名</p> <p>うち医師：専従（1）名、専任（2）名、兼任（5）名</p> <p>うち薬剤師：専従（2）名、専任（0）名、兼任（1）名</p> <p>うち看護師：専従（4）名、専任（0）名、兼任（3）名</p> <p>（注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること</p> <p>・活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療に係る安全管理のための指針の整備に関すること 2. 医療に係る安全管理のための委員会の開催に関すること 3. 医療に係る安全管理のための職員研修の実施に関すること 4. 事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の策定に関すること 	

- 5. その他医療に係る安全管理のための事務一般に関すること
- 6. 院内の環境・設備ならびに職員の接遇に関する意見や苦情の対応に関すること
- 7. 医療に係る安全管理に関する相談の対応に関すること
- 8. 医療事故の渉外に関すること
- 9. 個人情報の適正管理に関すること
- 10. 個人情報の紛失・盗難・漏洩の防止に関すること
- 11. 個人情報の紛失・盗難・漏洩時の対応に関すること

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。
 ※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（3件）、及び許可件数（1件）
- ・ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）
- ・ 高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）
- ・ 活動の主な内容：
 1. 高難度新規医療技術を用いた医療の提供に関する申請手続きに関すること（各診療科から提出される申請書類のチェックなど）
 2. 医療提供の適否決定に関すること（委員会での意見を確認の上、適否について決定し、提供にあたっての条件等を定める）
 3. 医療提供後の確認に関すること（適否の決定後、提供を認めた医療の報告対象の全症例について適切に業務が実施されたかどうか確認して院長報告、必要に応じて実施体制の見直しを行う）
- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・無）
- ・ 高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（有・無）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（0件）、及び許可件数（0件）
- ・ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）
- ・ 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無

有無（有・無）

・活動の主な内容：

1. 未承認新規（適応外は対象外）医薬品・医療機器等を用いた医療の申請手続きに関すること（各診療科から提出される申請書類のチェックなど）
2. 医療提供の適否決定に関すること（委員会での意見を確認の上、適否について決定し、提供にあたっての条件等を定める）
3. 医療提供後の確認に関すること（適否の決定後、提供を認めた医療の報告対象の全症例について適切に業務が実施されたかどうか確認して院長報告、必要に応じて実施体制の見直しを行う）

・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・無）

・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（有・無）

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 576 件

・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 452 件

・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容

医療安全管理委員会は、上記報告が適切に行われているかを確認し、その結果を院長に報告している。仮に報告が不十分であれば、必要な指導などを行っている。

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

・他の特定機能病院等への立入り（有）（病院名：順天堂大学附属順天堂医院）・無）

・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（有）（病院名：順天堂大学附属順天堂医院）・無）

・技術的助言の実施状況

・マーキングについて、以前は実施、現在行われていないということであるが、左右間違い等、患者参画型としてオープンクエスションで確認されるなどシステム構築等ご検討いただきたい。

→手術部委員会と協議し、現在システム等構築を図っている。

・インフォームド・コンセントのピアレビューについて統計学的視点も含め、ご検討いただきたい。

→IC委員会を中心にピアレビューを行うにあたっての同意書の統一化等を含め、検討している。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・体制の確保状況

(設置状況等)

- ・窓口の名称：患者相談窓口
- ・患者相談窓口の設置：平成15年4月1日
- ・責任者の氏名及び職種：医療安全管理部 部長（医師）
- ・対応部署：医療安全管理部 患者相談室 ・ 患者支援センター
- ・相談に応じる時間帯：月～金 午前9時より午後5時 土 午前9時より午後4時
- ・規約の整備状況：日本医科大学付属病院 患者相談窓口運営細則（平成17年4月1日施行）

(活動状況)

- ・患者への明示方法：院内3ヶ所 他に明示及び明記している。

(本館2階正面玄関入口・東館1階玄関入口・本館1階患者支援センター入口・入院案内パンフレット・ホームページ)

- ・窓口以外の苦情相談の受付 電話相談・投書箱設置（18ヶ所）
- ・相談により患者等が不利益を受けないようにプライバシーに留意し、個室対応している。

⑫ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

診療録管理、高難度新規医療技術を用いた医療の提供について 令和3年3月18日

講師 診療録管理室 室長 八島 正明

医療安全管理部 部長 石井 庸介

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

1. 管理者

- ①日本医療機能評価機構 2020年度特定機能病院管理者研修
2020年12月16日

2. 医療安全管理責任者

- ①日本医療機能評価機構 2020年度特定機能病院管理者研修

2020年12月24日

②セコム医療株式会社 2020年度医療安全管理者養成講座プログラム

2020年12月31日

3. 医薬品安全管理責任者

①日本医療機能評価機構 2020年度特定機能病院管理者研修

2020年11月25日

②日本医療機能評価機構 2020年度第1回薬剤安全セミナー

2020年12月19日

4. 医療機器安全管理責任者

①日本医療機能評価機構 2020年度特定機能病院管理者研修

2021年1月28日

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

⑭医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・ 第三者による評価の受審状況

日本医療機能評価機構 一般病院2 2016年6月3日認定

・ 評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

ホームページに認定されたことは掲載しているが、結果及び改善のために講ずべき内容は掲載しておらず公表していない

・ 評価を踏まえ講じた措置

B評価となった項目について改善に努めている

(注) 記載時点の状況を記載すること

規則第7条の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

<p>管理者に必要な資質及び能力に関する基準</p> <ul style="list-style-type: none"> 基準の主な内容 <p>日本医科大学付属病院長選任規程 令和元年11月1日施行</p> <p>任期、選定の基準、候補者選考の事由及び時期、選考委員会の設置、構成</p> <ul style="list-style-type: none"> 基準に係る内部規程の公表の有無 (<input checked="" type="radio"/> ・ 無) 公表の方法 <p>ホームページに掲載</p>

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	有・ <input checked="" type="radio"/> 無			
<ul style="list-style-type: none"> 選考を実施した場合、委員会の設置の有無 (有・無) 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無 (有・無) 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無 (有・無) 公表の方法 				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無		(有)・無	
<ul style="list-style-type: none"> ・合議体の主要な審議内容 病院の運営方針、中期計画、予算及び決算に関する事項 その他病院の管理運営に関する事項 人事異動報告、医療収入報告、医薬品情報報告、各種委員会における審議内容の報告 その他院長が必要と認める事項 ・審議の概要の従業者への周知状況 各部署長が出席し、審議内容を職員へ周知している。 ・合議体に係る内部規程の公表の有無（有・(無)） ・公表の方法 ・外部有識者からの意見聴取の有無（有・(無)） 			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
汲田 伸一郎	○	医師	院長
近藤 幸尋		医師	副院長
吉田 寛		医師	副院長
岩切 勝彦		医師	副院長
石井 庸介		医師	副院長
鈴木 智恵子		看護師	副院長
安武 正弘		医師	総合診療科部長
岩崎 雄樹		医師	循環器内科部長
木村 和美		医師	脳神経内科部長
酒井 行直		医師	腎臓内科部長
桑名 正隆		医師	リウマチ・膠原病内科部長
山口 博樹		医師	血液内科部長
杉原 仁		医師	糖尿病・内分泌代謝内科部長
清家 正博		医師	呼吸器内科部長
久保田 馨		医師	化学療法科部長
館野 周		医師	精神神経科部長
伊藤 保彦		医師	小児科部長
佐伯 秀久		医師	皮膚科部長
岸川 洋昭		医師	麻酔科・ペインクリニック部長
鈴木 規仁		医師	緩和ケア科部長

前林 勝也		医師	放射線治療科部長
武井 寛幸		医師	乳腺科部長
杉谷 巖		医師	内分泌外科部長
臼田 実男		医師	呼吸器外科部長
森田 明夫		医師	脳神経外科部長
高橋 浩		医師	眼科部長
大久保 公裕		医師	耳鼻咽喉科・頭頸部外科部長
明楽 重夫		医師	女性診療科・産科部長
眞島 任史		医師	整形外科・リウマチ外科部長
小川 令		医師	形成外科・美容外科・再建外科部長
新井 正徳		医師	救急診療科部長
横堀 将司		医師	救命救急科部長
廣田 薫		医師	東洋医学科部長
山田 岳史		医師	遺伝診療科部長
眞々田 裕宏		医師	がん診療科部長
大橋 隆治		医師	病理診断科部長
石川 真士		医師	外科系集中治療科部長
久野 彰子		歯科医師	口腔科（周術期）部長
寺崎 泰弘		医師	病理部部長
柏木 哲也		医師	血液浄化療法センター室長
貝瀬 満		医師	内視鏡センター室長
遠藤 康実		医師	臨床検査部部長
宮本 正章		医師	高気圧酸素治療室室長
山口 博樹		医師	輸血部部長
大塚 俊昭		医師	臨床研究総合センターセンター長
林 宏光		医師	放射線科部長
八島 正明		医師	保険診療指導部部長
平間 章郎		医師	腎クリニック所長
藤田 和恵		医師	医療安全管理部感染制御室室長
伊勢 雄也		薬剤師	薬剤部部長
山本 臣生		事務職員	事務部部長

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（有 無 ）
- ・ 公表の方法

- ・ 規程の主な内容

管理者は、病院の業務を統括し、所属職員を指揮監督すると共に、病院全般の円滑な運営に当たる。
予算承認について、支出に拘わる案件の予算承認限度額を定める。

- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割

【職名】副院長
手術室運営に関する事、収支改善に関する事、医療経費削減に関する事、
医療連携に関する事、医師の負担軽減に関する事、臨床研修センター運営に関する事

医療安全・感染対策に関する事、経営戦略に関する事、看護部門に関する事、
患者安全管理に関する事、病棟稼働率・平均在院日数等の効率化に関する事

- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況

日本私立医科大学協会病院事務長会議、病院庶務研究会等に出席している。

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況	(有)・無
<p>・ 監査委員会の開催状況：年2回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <p>(1) 医療安全管理責任者、医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者等の業務の状況に応じて自ら確認を実施する。</p> <p>(2) 必要に応じ、理事長又は院長に対し、医療に係る安全管理についての是正措置を講じるよう意見を表明する。</p> <p>(3) 上記業務について、その結果を公表する。</p> <p>・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無 ((有)・無)</p> <p>・ 委員名簿の公表の有無 ((有)・無)</p> <p>・ 委員の選定理由の公表の有無 ((有)・無)</p> <p>・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無 ((有)・無)</p> <p>・ 公表の方法：</p> <p>学校法人のホームページにて公表</p>	

監査委員会の委員名簿及び選定理由 (注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
長島 隆	東洋大学	○	利害関係のない学識経験者	有・無 (無)	1
小泉 博明	文京学院大学		利害関係のない学識経験者	有・無 (無)	1
豊田 郁子	NPO 法人「架け橋」		利害関係のない医療従事者以外の者	有・無 (無)	2
櫻田 晋太郎	弁護士		利害関係のない学識経験者	有・無 (無)	1
近藤 幸尋	日本医科大学付属病院		副院長・泌尿器科部長	(有) 無	3
				有・無	
				有・無	

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1.に掲げる者を除く。)
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

・体制の整備状況及び活動内容

定期的（年1回）に管理者による病院の管理状況を確認する。

必要に応じて臨時に確認を実施する。

- ・ 専門部署の設置の有無（有・無）
- ・ 内部規程の整備の有無（有・無）
- ・ 内部規程の公表の有無（有・無）
- ・ 公表の方法

規則第15条の4第1項第3号ロに掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 原則として毎月1回理事長が招集し、学校法人の業務を決し、理事の職務の執行を監督する。 ・ 会議体の実施状況（ 年11回 ） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ <input checked="" type="radio"/>有・無 ）（ 年11回 ） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ 有 <input checked="" type="radio"/>無 ） ・ 公表の方法 			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
			有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第 15 条の 4 第 1 項第 4 号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none">・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無)・ 通報件数 (年 0 件)・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無)・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無)・ 周知の方法 ホームページを用いて公益通報・相談窓口のメールアドレス等の連絡先を恒常的に職員に対して周知。

(様式第 8-3)

第 220 号
令和 3 年 1 0 月 4 日

厚生労働大臣

殿

開設者名 学校法人 日本医科大学
理事長 坂本 篤裕

日本医科大学付属病院の第三者による評価を受審する計画について

標記について、次のとおり提出します。

記

1 受審予定である第三者評価

- | |
|---|
| ① 公益財団法人日本医療機能評価機構が実施する病院機能評価のうち、一般病院 3 による評価 |
| 2 Joint Commission Internationalが実施する、J C I 認証による評価 |
| 3 ISO 規格に基づく、ISO 9001 認証による評価 |

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○を付けること。

2 第三者評価を受けるための予定措置

2022年5月頃 日本医療機能評価機構 一般病院3を受審予定
